



AMD 800 シリーズ マザーボード

ソフトウェア / BIOS セットアップ ガイド

バージョン 1.1

2026 年 2 月発行

Copyright©2026 ASRock INC. 無断複写・転載を禁じます。

バージョン 1.1

2026 年 2 月発行

Copyright©2026 ASRock INC.無断複写・転載を禁じます。

著作権について：

当文書のいかなる部分も、ASRock の書面による同意なしに、バックアップを目的とした購入者による文書のコピーを除いては、いかなる形式や方法によっても、複写、転載、送信、または任意の言語へ翻訳することは禁じます。

当文書に記載されている製品名および企業名は、それぞれの企業の登録商標または著作物であることもあり、権利を侵害する意図なく、ユーザーの便宜を図って特定または説明のためにのみ使用されます。

免責事項：

当文書に記載されている仕様および情報は、情報提供のみを目的として付属されており、予告なく変更する場合があります。その整合性や正確性について、ASRock がなんらの確約をするものではありません。ASRock は、当文書での誤記や記載漏れについて一切の責任を負いかねます。

法律で認められる範囲において、本文書の内容について、ASRock は、明示または黙示にも、黙示の保証、商品性の条件、または特定の目的への適合性を含め、かつそれらに限定されず、いかなる種類の保証もいたしません。いかなる状況においても、たとえ ASRock が当文書や製品の欠陥や誤りに起因する損害の可能性を 事前に知らされていたとしても、ASRock、取締役、役員、従業員、または代理人は、いかなる間接的、専門的、偶発的、または必然的な損害(利益の損失、事業の損失、データの損失、事業の中断などを含む)への責任を負いかねます。

連絡先情報：

ASRock に連絡する必要がある場合、または、ASRock に関する詳細情報をお知りになりたい場合は、ASRock のウェブサイト <http://www.asrock.com> をご覧になるか、または、詳細情報について弊社取扱店までお問い合わせください。技術的なご質問がある場合は、<https://event.asrock.com/tsd.asp> でサポートリクエスト用紙を提出してください。

ASRock Incorporation

電子メール： info@asrock.com.tw

ASRock EUROPE B.V.

電子メール： sales@asrock.nl

ASRock America, Inc.

電子メール： sales@asrockamerica.com

内容

第 1 章 はじめに	1
第 2 章 ソフトウェアとユーティリティの操作	2
2.1 自動ドライバー インストーラー (ADI)	2
2.1.1 初めてドライバーをインストールする	2
2.1.2 ドライバーの更新	6
2.2 ASRock ライブ更新と APP ショップ	7
2.2.1 ASRock ライブ更新と APP ショップのインストール	7
2.2.2 UI 概要	8
2.2.3 アプリ	9
2.2.4 BIOS とドライバー	12
2.2.5 設定	13
2.3 ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning)	14
2.3.1 ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) のインストール	14
2.3.2 ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) の使用	14
2.4 Phantom Gaming Tuning	17
2.4.1 Phantom Gaming Tuning のインストール	17
2.4.2 Phantom Gaming Tuning の使用	17
2.5 ASRock Polychrome SYNC	20
2.5.1 LED ストリップを接続する	20
2.5.2 アドレスابل RGB LED ストリップを接続する	21
2.5.3 Installing ASRock Polychrome SYNC ユーティリティのインストール	22
2.6 Nahimic Audio (Nahimic オーディオ)	23

第3章 UEFI セットアップ ユーティリティ	25
3.1 はじめに	25
3.1.1 BIOS セットアップに入る	25
3.1.2 EZ モード	26
3.1.3 詳細モード	27
3.1.4 UEFI メニュー バー	27
3.1.5 ナビゲーション キー	28
3.2 Main (メイン) 画面	29
3.3 OC Tweaker (OC 調整) 画面	30
3.4 Advanced (詳細) 画面	37
3.4.1 CPU Configuration (CPU 構成)	39
3.4.2 PCI Configuration (PCI 構成)	40
3.4.3 Onboard Devices Configuration(オンボード デバイス構成)	41
3.4.4 Storage Configuration (ストレージ構成)	43
3.4.5 ACPI Configuration (ACPI 構成)	44
3.4.6 USB Configuration(USB 構成)	46
3.4.7 Trusted Computing(トラステッド コンピューティング)	47
3.4.8 AMD CBS	49
3.4.9 AMD PBS	66
3.4.10 AMD Overclocking (AMD オーバークロッキング)	68
3.5 Tool (ツール)	69
3.6 Hardware Health Event Monitoring (ハードウェア ヘルス イベント監視) 画面	71
3.7 Security (セキュリティ) 画面	76
3.8 Boot (起動) 画面	80
3.9 Exit (終了) 画面	82

第 1 章 はじめに

本ユーザー ガイドは、すべての AMD 800 マザーボード シリーズのセットアップ ガイド完全版です。このマニュアルのスクリーンショットは参考用です。設定とオプションは、購入したマザーボードによって異なる場合があります。

このドキュメントの第 1 章では、セットアップ ガイドの概要を説明します。第 2 章には、ソフトウェアとユーティリティの操作ガイドが含まれています。第 3 章には、BIOS セットアップの構成ガイドが含まれています。

ソフトウェア セットアップ ガイド

- 自動ドライバー インストーラー (ADI)
- ASRock ライブ更新と APP ショップ
- ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning)
- Phantom Gaming Tuning
- ASRock Polychrome SYNC
- Nahimic オーディオ

BIOS セットアップ ガイド

- UEFI セットアップ ユーティリティ



マザーボードの仕様とソフトウェアは更新されることがあるため、このマニュアルの内容は予告なしに変更することがあります。このマニュアルの内容に変更があった場合には、更新されたバージョンは、予告なく ASRock のウェブサイトから入手できるようになります。このマザーボードに関する技術的なサポートが必要な場合には、ご使用のモデルについての詳細情報を、当社のウェブサイトで参照ください。ASRock Web サイト <http://www.asrock.com>。

第2章 ソフトウェアとユーティリティの操作

2.1 自動ドライバー インストーラー (ADI)

ドライバーのインストールに、光学ドライブまたはドライバー DVD は不要になりました。ASRock マザーボードには、すでに BIOS ROM にプリバックされたイーサネットドライバーが含まれています。オペレーティングシステムのインストールが完了したら、自動ドライバー インストーラーを使用して、必要なすべてのドライバーを自動的にダウンロードしてインストールします。

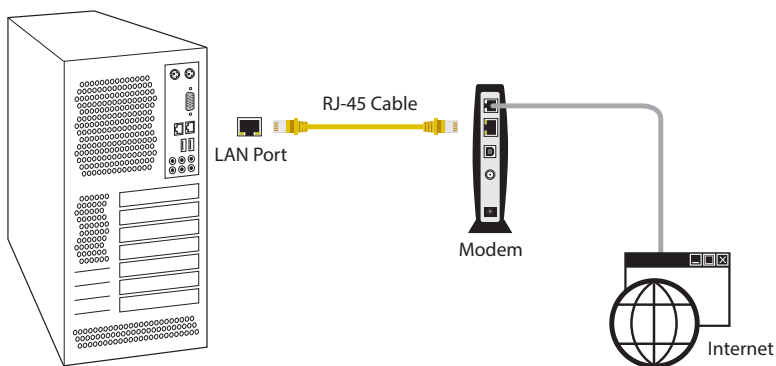
2.1.1 初めてドライバーをインストールする

指示に従って、自動ドライバー インストーラーから必要なすべてのドライバーをインストールします。

以下の手順では、インターネット アクセスが必要ですのでご注意ください。

手順 1

Windows OS をインストールしたら、コンピューターをインターネットに接続します。



手順 2

システムを起動すると、画面の右下隅に「Do you want to one-step-install the latest drivers simply from ASRock Auto Driver Installer? (ASRock 自動ドライバー インストーラーから簡単に最新のドライバーをワンステップでインストールしますか?)」という通知がポップアップ表示されます。

「Yes (はい)」を選択して自動ドライバー インストーラーをインストールします。

「No (いいえ)」を選択してインストールをスキップします。



1. 自動ドライバー インストーラーは、BIOS のメニューの「Auto Driver Installer (自動ドライバー インストーラー)」項目が「Enabled (有効)」に設定されている場合にのみ、ユーザーがドライバーをインストールするために自動的にポップアップ表示します。項目はデフォルトで有効になっています。したがって、初めてのユーザーは、BIOS で設定を変更する必要はありません。
2. 自動ドライバー インストーラーを使用するには、利用可能なインターネット接続が前提条件です。インターネットなしでシステムを起動すると、自動ドライバー インストーラーは表示されません。コンピューターをインターネットに接続し、数秒待つと、自動ドライバー インストーラーがポップアップ表示されます。
3. 手順 2 で「No (いいえ)」を選択してインストールをスキップすると、自動ドライバー インストーラーは削除されます。アプリケーションを再度実行する場合は、BIOS 設定で「Auto Driver Installer (自動ドライバー インストーラー)」項目を有効にしてください。

手順 3

完了すると、デスクトップに自動ドライバー インストーラー アイコンが表示され、自動ドライバー インストーラーが表示されます。



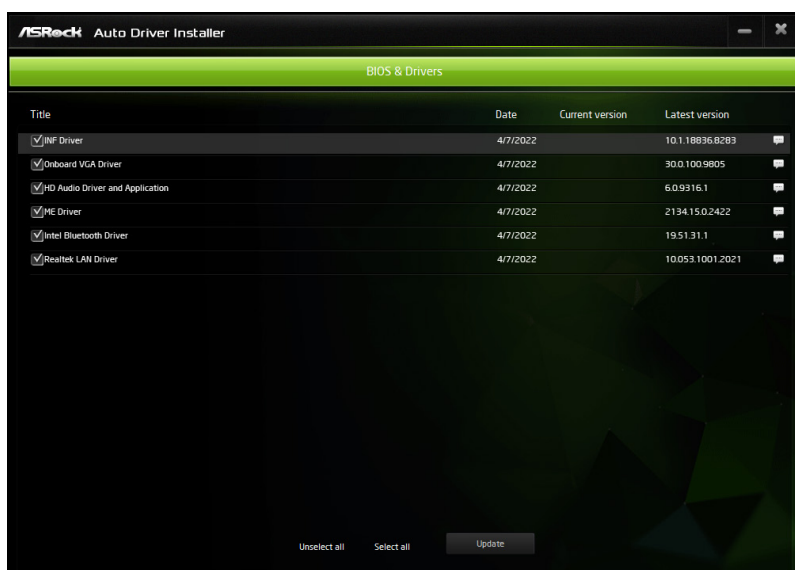
手順 4

自動ドライバー インストーラー パネルには、マザーボードがサポートする利用可能なすべてのドライバーが一覧表示されます。インストールするドライバーを 1 つ以上選択します。

「Select All (すべて選択)」をクリックすると、すべての項目が選択されます。

「Unselect All (すべての選択を解除)」をクリックして、すべての選択を削除します。

「Update (更新)」をクリックして、ドライバーのダウンロードとインストールを開始します。



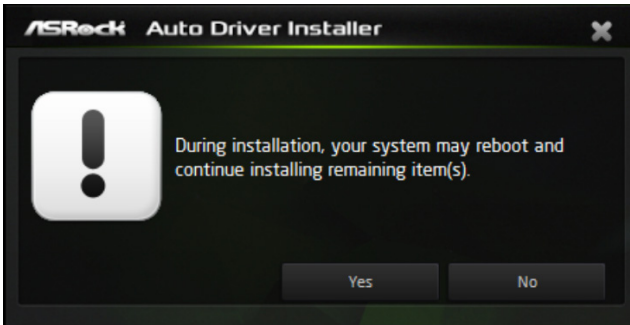
インストールするドライバーがない場合は、「Finish (完了)」をクリックして終了します。アプリケーションを再度実行する場合は、BIOS 設定で「Auto Driver Installer (自動ドライバー インストーラー)」項目を有効にしてください。

手順 5

「During installation, your system may reboot and continue installing remaining item(s) (インストール中にシステムが再起動し、残りの項目のインストールを続行する可能性があります)」というメッセージが表示されます。

「Yes (はい)」をクリックして続行します。

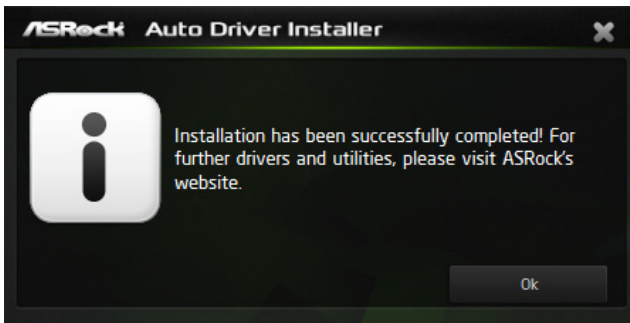
「No (いいえ)」をクリックして終了します。



手順 6

すべてのドライバーが正常にインストールされると、「Installation has been successfully completed! (インストールが正常に完了しました!) For further drivers and utilities, please visit ASRock's website. (その他のドライバーとユーティリティについては、ASRock の Web サイトにアクセスしてください。)」というポップアップメッセージが表示されます。

「OK」をクリックして手続きを完了します。



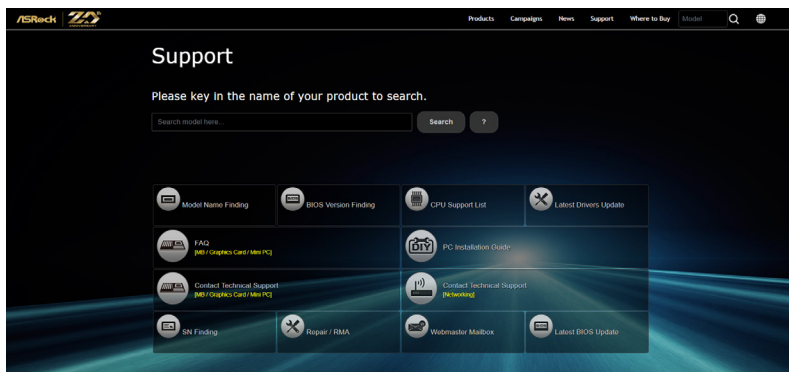
ドライバーのインストールが完了すると、自動ドライバー インストーラー ツールがコンピューターから自動的にアンインストールされます。



ドライバーのインストール後、自動ドライバー インストーラーは削除されます。アプリケーションを再度実行する場合は、BIOS 設定の「Tool (ツール)」メニューに移動し、「Auto Driver Installer (自動ドライバー インストーラー)」項目を「Enabled (有効)」に設定してください。

2.1.2 ドライバーの更新

ドライバーを更新すると、システムが問題なく正常に動作することが保証されます。ドライバーを更新するには、ASRock の Web サイト (<https://www.asrock.com>) にアクセスし、「Support (サポート)」>「Latest Drivers Update (最新のドライバーの更新)」を選択してください。



2.2 ASRock ライブ更新と APP ショップ

ASRock ライブ更新と APP ショップは、ASRock コンピューター用のソフトウェアアプリケーションを購入したりダウンロードできるオンラインストアです。さまざまなアプリケーションとサポートユーティリティを素早く簡単にインストールできます。ASRock ライブ更新と APP ショップを使用すれば、数回クリックするだけで、システムを最適化して、マザーボードを最新の状態に維持できます。

2.2.1 ASRock ライブ更新と APP ショップのインストール

ASRock の Web サイトから ASRock ライブ更新と APP ショップ ユーティリティをダウンロードしてください: 「<https://www.asrock.com>」。

マザーボードの製品ページに移動し、「Support (サポート)」 > 「Download (ダウンロード)」を選択して APP ショップをダウンロードします。

Description	OS	Size	Date	Download
Realtek high definition audio driver ver.9231.1_UAD_WHQL_Nahimic	Windows® 11 64bit	35.5MB	2021/10/12	Global China
AMD chipset driver ver.3.0.22.706	Windows® 11 64bit	50.33MB	2021/11/30	Global China
Killer Lan driver ver.3.0.1606	Windows® 11 64bit	38.8MB	2021/10/8	Global China
AMD RAIDXpert2 utility ver.9.2.0.158	Windows® 11 64bit	95.4MB	2021/5/31	Global China
SATA Floppy Image_CC ver.9.3.0.296	Windows® 11 64bit	361KB	2022/2/8	Global China
SATA Floppy Image_DID ver.9.3.0.296	Windows® 11 64bit	361KB	2022/2/8	Global China
NVMe DID Supported AMD processors: (Picasso) - AMD Ryzen™ 3000 Series Desktop Processors with Radeon™ Graphics (Renoir) - AMD Ryzen™ 4000 Series Desktop Processors with Radeon™ Graphics (Cezanne) - AMD Ryzen™ 5000 Series Desktop Processors with Radeon™ Graphics	Windows® 11 64bit	361KB	2022/2/8	Global China
VGA driver ver.21.30.02.210727a_0627	Windows® 11 64bit	587MB	2021/10/8	Global China
ASRock Motherboard Utility ver.3.0.466	Windows® 11 64bit	59.40MB	2022/5/17	Global China
APP Shop ver.1.0.52	Windows® 11 64bit	3.91MB	2021/5/31	Global China
Nahimic3 utility ver.210913_APO4	Windows® 11 64bit	85.3MB	2021/11/8	Global China
Norton Security ver.22.21.5	Windows® 11 64bit	232MB	2021/10/8	Global China
Restart to UEFI ver.1.0.9	Windows® 11 64bit	1.01MB	2021/10/8	Global China
[beta] ASRock Motherboard Utility ver.3.0.441	Windows® 11 64bit	59.31MB	2021/12/14	Global China

インストール後、デスクトップ上の  をダブルクリックして ASRock ライブ更新と APP ショップ ユーティリティにアクセスします。

*ASRock ライブ更新と APP ショップからアプリケーションをダウンロードするにはインターネットに接続している必要があります。

2.2.2 UI 概要



Category Panel (カテゴリ パネル): カテゴリ パネルにはいくつかのタブまたはボタンがあります。これらのタブまたはボタンを選択すると、下の情報パネルに關係する情報が表示されます。

Information Panel (情報パネル): 中央にある情報パネルには、現在選択されているカテゴリについてのデータが表示されます。また、ジョブに關係するタスクを実行できます。

Hot News (ホット ニュース): ホット ニュース セクションにはさまざまな最新ニュースが表示されます。画像をクリックして選択したニュースの Web サイトを開いて詳しく読むことができます。

2.2.3 アプリ

「Apps (アプリ)」タブを選択すると、ダウンロードできるすべてのアプリが画面上に表示されます。

アプリをインストールする

手順 1

インストールしたいアプリを検索します。



最も推奨されるアプリが画面の左側に表示されます。その他のさまざまなアプリは右側に表示されます。上下にスクロールして一覧にあるアプリを検索してください。

アプリの価格を確認したり、アプリを既にインストールしているかどうかを確認できます。

Free - 赤色のアイコンに価格が表示されます。または、アプリが無料の場合は「Free (無料)」と表示されます。

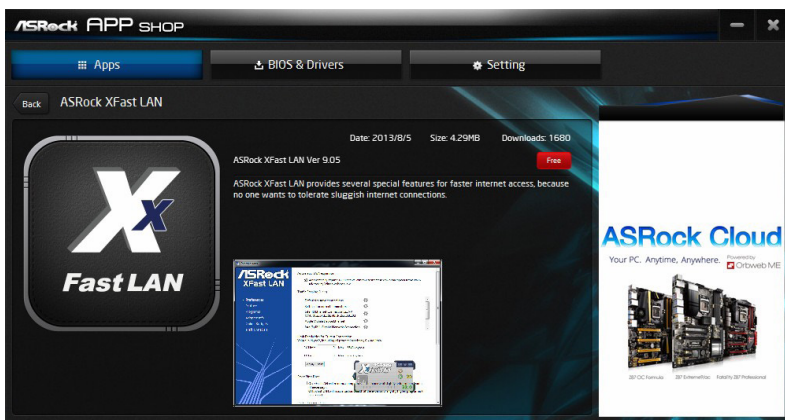
Installed - 緑色の「Installed (インストール済み)」アイコンは、アプリがコンピューターにインストールされていることを意味します。

手順 2

アプリ アイコンをクリックすると、選択したアプリの詳細情報が表示されます。

手順 3

アプリをインストールしたい場合は、赤色のアイコン  をクリックしてダウンロードを開始します。



手順 4

インストールが完了すると、右上端に緑色の「Installed (インストール済み)」アイコンが表示されます。



アプリをアンインストールするには、ゴミ箱アイコン  をクリックします。

* アプリによっては、ゴミ箱アイコンが表示されないことがあります。

アプリをアップグレードする

アップグレードできるのはインストール済みのアプリのみです。アプリの新しいバージョンがある場合は、インストールしたアプリ アイコンの下に「New Version (新しいバージョン)」のマークが表示されます。



手順 1

アプリ アイコンをクリックすると、詳細情報が表示されます。

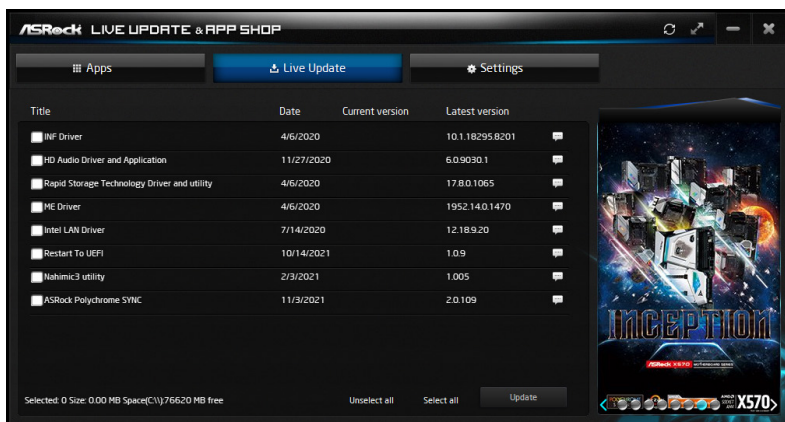
手順 2

黄色のアイコン  をクリックしてアップグレードを開始します。

2.2.4 BIOS とドライバー

BIOS またはドライバーをインストールする

「BIOS & Drivers (BIOS とドライバー)」タブを選択すると、BIOS またはドライバー用の推奨更新または重要な更新が一覧表示されます。速やかにすべて更新してください。



手順 1

更新する前に項目情報を確認してください。🗉 をクリックすると、詳細情報が表示されます。

手順 2

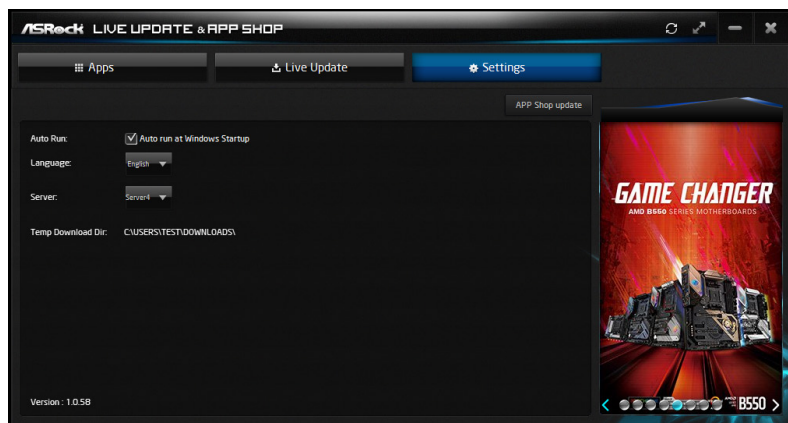
更新したい項目を 1 つまたは複数クリックして選択します。

手順 3

「Update (更新)」をクリックして更新処理を開始します。

2.2.5 設定

「Setting (設定)」ページで、言語を変更したり、サーバーの場所を選択したり、Windows 起動時に ASRock ライブ更新と APP ショップを自動的に実行するかどうかを決めることができます。



2.3 ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning)

ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) は ASRock の多目的ソフトウェアスイートです。新しいインターフェースを搭載し、数々の新しい機能が追加されており、ユーティリティが改善されました。

2.3.1 ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) のインストール

ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) を ASRock ライブ更新と APP ショップからダウンロードできます。

ASRock の Web サイトからユーティリティをダウンロードすることもできます：

「<https://www.asrock.com>」。マザーボードの製品ページに移動し、「Support (サポート)」>「Download (ダウンロード)」を選択して、「ASRock マザーボード ユーティリティ」をダウンロードします。

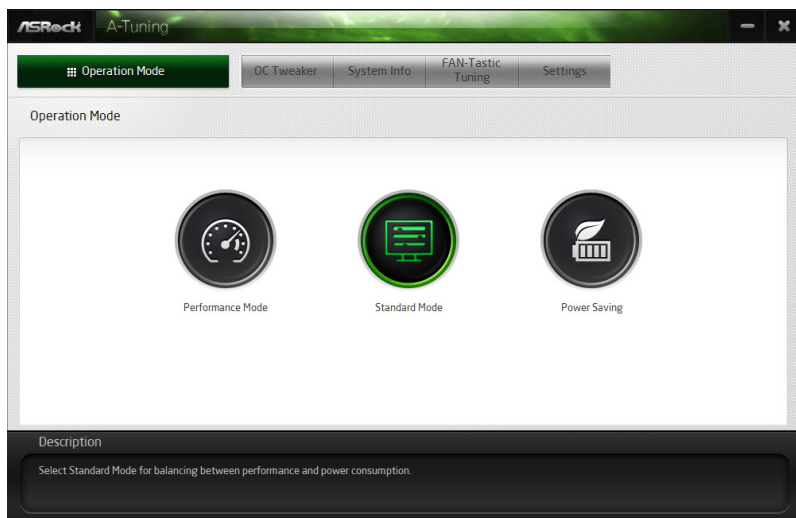
インストール後、デスクトップに「ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning)」アイコンが表示されます。「ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning)」アイコン  をダブルクリックすると、ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) のメインメニューが表示されます。

2.3.2 ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) の使用

ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) のメインメニューには次の 5 つのセクションがあります：Operation Mode (操作モード)、OC Tweaker (OC 調整)、System Info (システム情報)、FAN-Tastic Tuning (FAN-Tastic チューニング)、Settings (設定)。

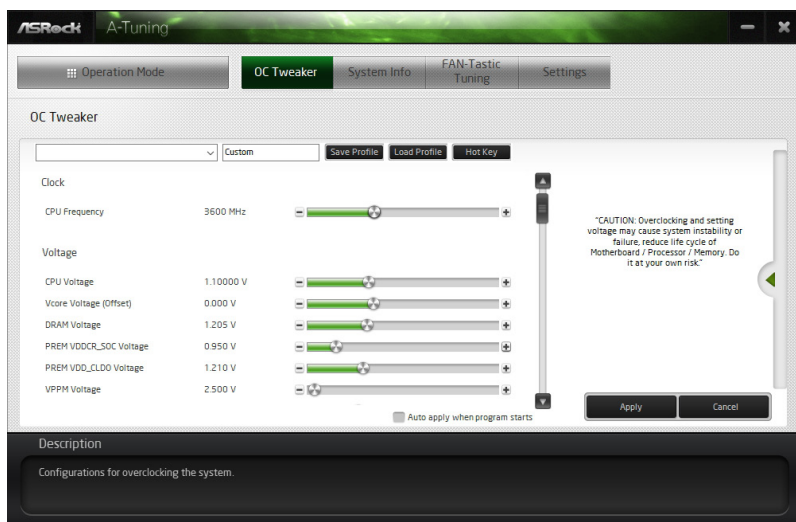
Operation Mode (操作モード)

コンピューターの操作モードを選択します。



OC Tweaker (OC 調整)

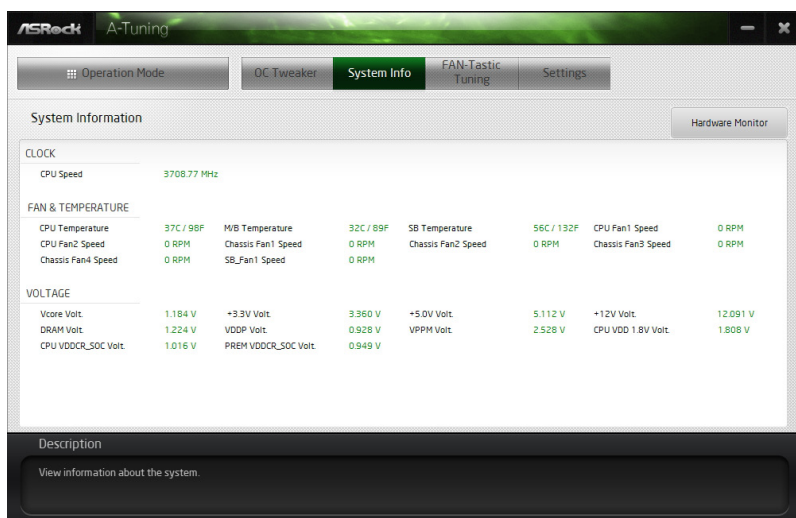
システムのオーバークロック構成。



System Info (システム情報)

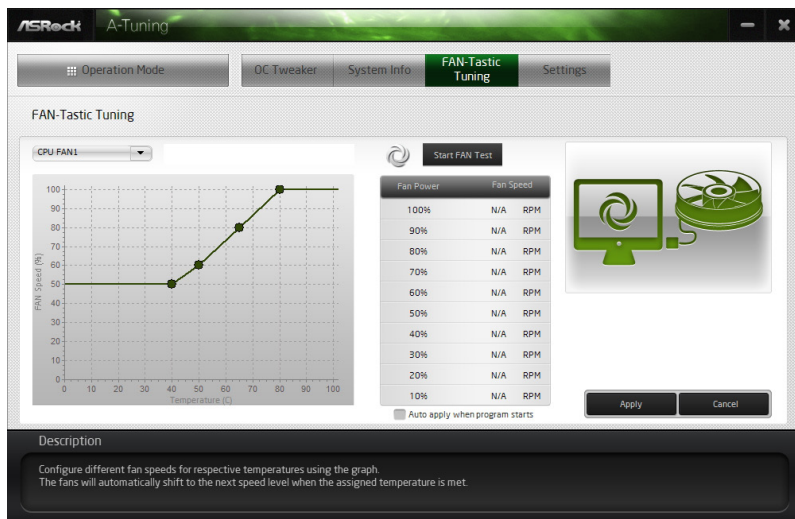
システムに関する情報を表示します。

* モデルによっては、システム ブラウザー タブが表示されないことがあります。



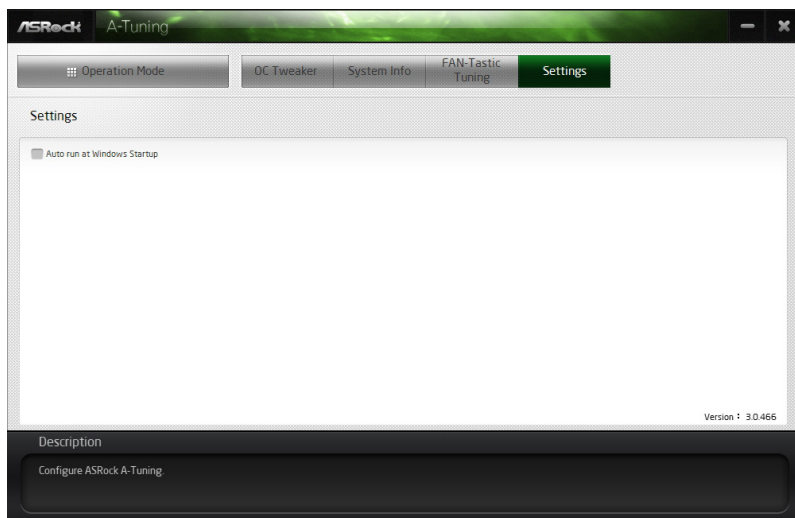
FAN-Tastic Tuning (FAN-Tastic 調整)

グラフを使用して、最大 5 種類のファン速度を構成できます。割り当てられた温度に達すると、ファンは次の速度レベルへと自動的にシフトします。



Settings (設定)

ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) を構成します。Windows オペレーティングシステムの起動時に ASRock マザーボード ユーティリティ (A-Tuning) を起動する場合は、「Auto run at Windows Startup (Windows 起動時に自動実行)」をクリックして選択します。



2.4 Phantom Gaming Tuning

Phantom Gaming Tuning は ASRock の多目的ソフトウェアスイートです。新しいインターフェースを搭載し、数々の新しい機能が追加されており、ユーティリティが改善されました。

2.4.1 Phantom Gaming Tuning のインストール

Phantom Gaming Tuning を ASRock Live Update & APP Shop (ASRock ライブ更新と APP ショップ) からダウンロードできます。

ASRock の Web サイトからユーティリティをダウンロードすることもできます：

「<https://www.asrock.com>」。マザーボードの製品ページに移動し、「Support (サポート)」>「Download (ダウンロード)」を選択して、「ASRock マザーボード ユーティリティ」をダウンロードします。

インストール後、デスクトップに「Phantom Gaming Tuning」アイコンが表示されます。

「Phantom Gaming Tuning」 アイコンをダブルクリックすると、Phantom Gaming Tuning のメインメニューがポップアップ表示されます。

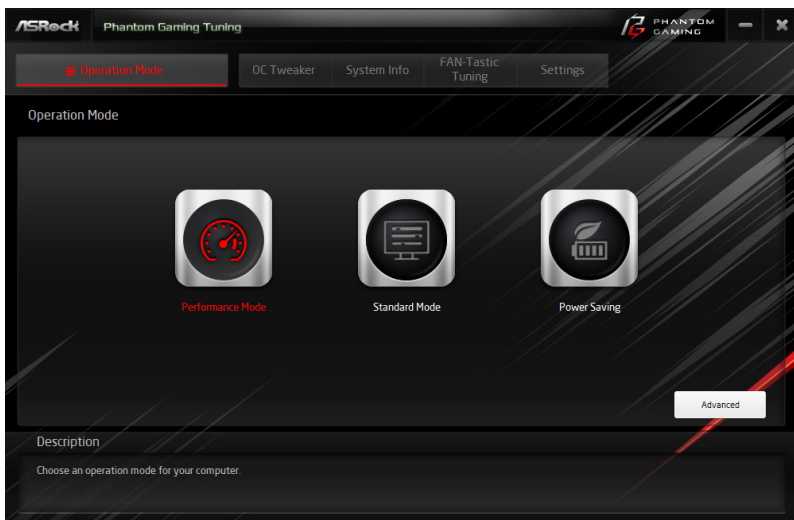
2.4.2 Phantom Gaming Tuning の使用

Phantom Gaming Tuning のメインメニューには次の 5 つのセクションがあります：

Operation Mode (操作モード)、OC Tweaker (OC 調整)、System Info (システム情報)、FAN-Tastic Tuning (FAN-Tastic チューニング)、Settings (設定)。

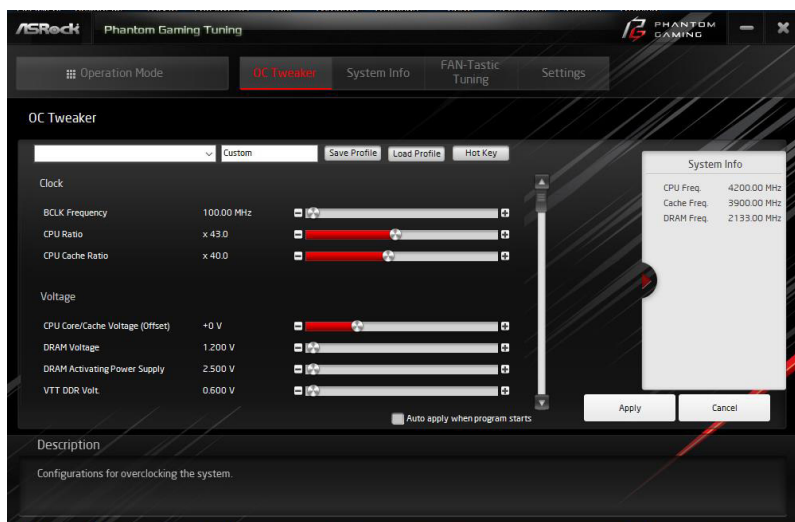
Operation Mode (操作モード)

コンピューターの操作モードを選択します。



OC Tweaker (OC 調整)

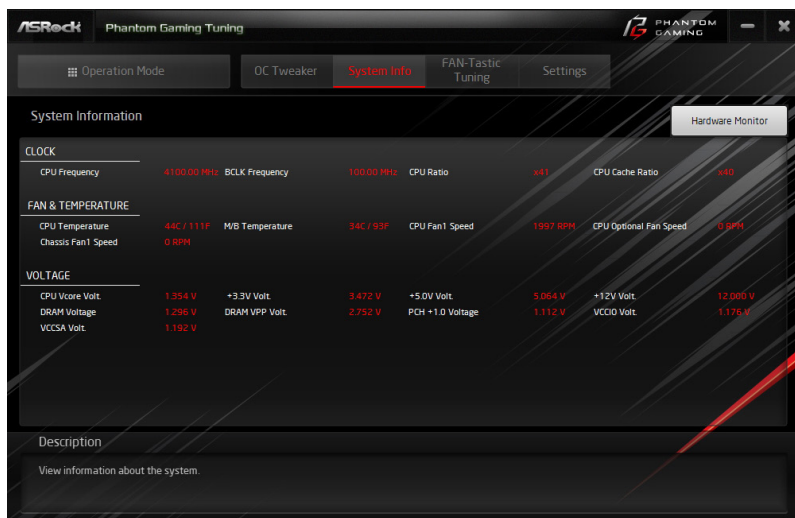
システムのオーバークロック構成。



System Info (システム情報)

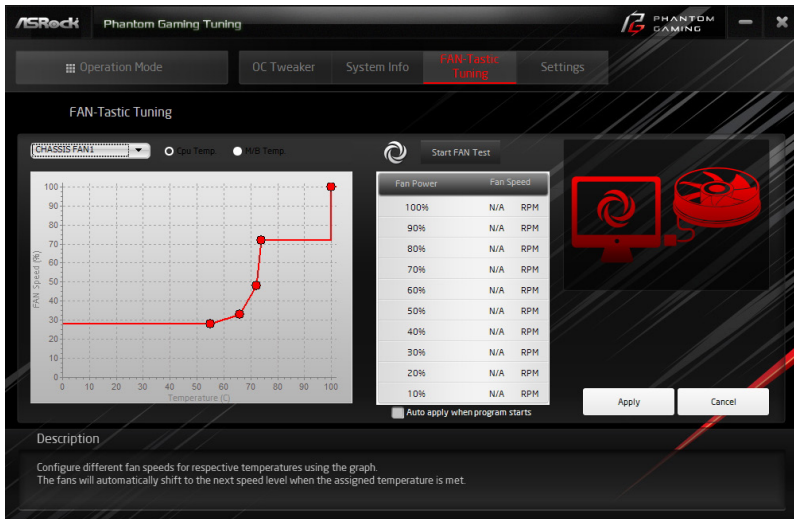
システムに関する情報を表示します。

* モデルによっては、システム ブラウザー タブが表示されないことがあります。



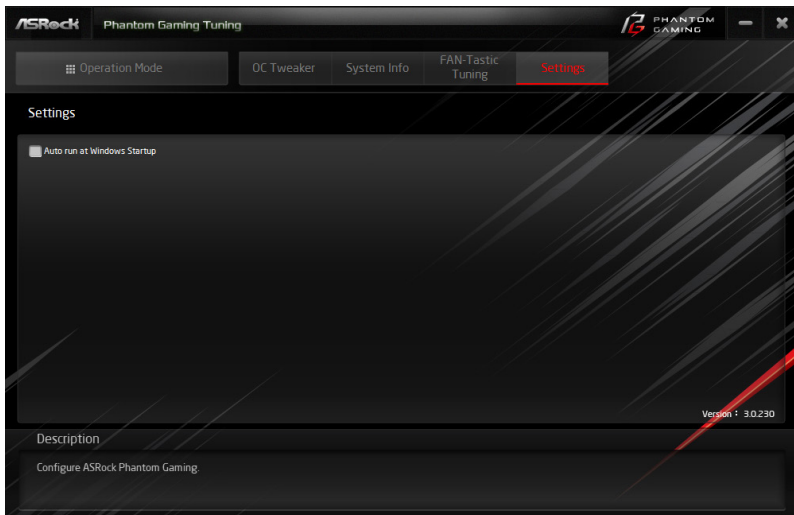
FAN-Tastic Tuning (FAN-Tastic 調整)

グラフを使用して、最大 5 種類のファン速度を構成できます。割り当てられた温度に達すると、ファンは次の速度レベルへと自動的にシフトします。



Settings (設定)

ASRock Phantom Gaming Tuning を構成します。Windows オペレーティングシステムの起動時に Phantom Gaming Tuning を起動する場合は、「Auto run at Windows Startup (Windows 起動時に自動実行)」をクリックして選択します。

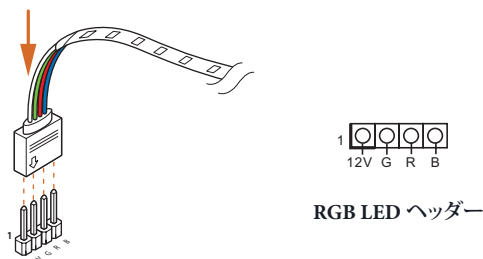


2.5 ASRock Polychrome SYNC

ASRock Polychrome SYNC は、ご自分の好みに合わせて独自のスタイリッシュでカラフルなライティングシステムをビルドしたいという個性的なユーザー向けに特別設計されたライティング制御機能です。LED ストリップを接続するだけで、「Static」、「Breathing」、「Strobe」、「Cycling」、「Music」、「Wave」などのさまざまライティングスキームとパターンをカスタマイズできます。

2.5.1 LED ストリップを接続する

RGB LED ストリップをマザーボード上の **RGB LED ヘッダー** に接続します。



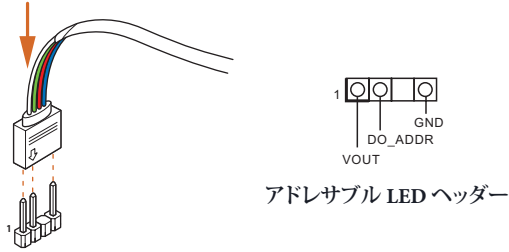
1. RGB LED ケーブルは間違った方向に取り付けしないでください。間違った方向に取り付けるとケーブルが破損することがあります。
2. RGB LED ケーブルを取り付けたり取り外す前には、システムの電源を切って、電源供給から電源コードを取り外してください。そうしないと、マザーボードコンポーネントが破損することがあります。



1. RGB LED ストリップはパッケージには含まれていません。
2. RGB LED ヘッダーは、最大出力規格 3A (12V) で長さが 2 メートル以内の標準 5050 RGB LED ストリップ (12V/G/R/B) に対応します。

2.5.2 アドレスابل RGB LED ストリップを接続する

アドレスابل RGB LED ストリップをマザーボード上のアドレスابل **RGB LED** ヘッダーに接続します。



1. RGB LED ケーブルは間違った方向に取り付けしないでください。間違った方向に取り付けるとケーブルが破損することがあります。
2. RGB LED ケーブルを取り付けたり取り外す前には、システムの電源を切って、電源供給から電源コードを取り外してください。そうしないと、マザーボードコンポーネントが破損することがあります。



1. RGB LED ストリップはパッケージには含まれていません。
2. RGB LED ヘッダーは、最大定格 3A (5V)、長さ 2 メートルまでの WS2812B アドレスابل RGB LED ストリップ (5V/Data/GND) に対応します。

2.5.3 Installing ASRock Polychrome SYNC ユーティリティのインストール

必要な LED ストリップを接続したら、ASRock Live Update & APP Shop (ASRock ライブ更新と APP ショップ) から ASRock Polychrome SYNC ユーティリティをダウンロードします。ASRock の Web サイトからユーティリティをダウンロードすることもできます：

「<https://www.asrock.com>」。マザーボードの製品ページに移動し、「Support (サポート)」>「Download (ダウンロード)」を選択して ASRock Polychrome RGB をダウンロードします。

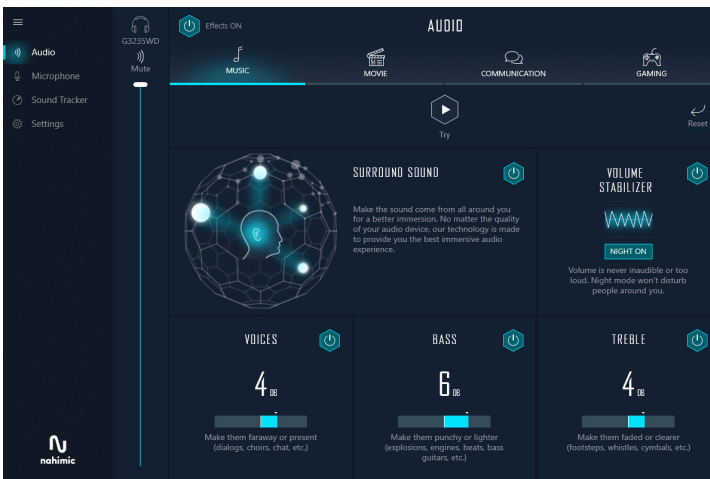
このユーティリティを使用して RGB LED の色を調整し、PC のスタイルを思いのままに色付けすることができます。



2.6 Nahimic Audio (Nahimic オーディオ)

Nahimic オーディオソフトウェアは、素晴らしいハイデフィニションサウンドを提供して、システムのオーディオおよびボイス性能を向上させます。Nahimic オーディオインターフェースは次の 4 つのタブで構成されます：Audio (オーディオ)、Microphone (マイクروفोन)、Sound Tracker (サウンドトラッカー)、Settings (設定)。

ASRock Live Update & APP Shop (ASRock ライブ更新と APP ショップ) からこのユーティリティをダウンロードしてください。ASRock の Web サイトからユーティリティをダウンロードすることもできます：「<https://www.asrock.com>」。マザーボードの製品ページに移動し、「Support (サポート)」>「Download (ダウンロード)」を選択して Nahimic ユーティリティをダウンロードします。



Nahimic オーディオには 4 つの機能ががあります：

番号	機能	説明
1	オーディオ	このタブから、現在のオーディオデバイスを消音にしたり、4つの工場出荷時オーディオプロファイルから選択したり、すべてのオーディオ効果をオン/オフにしたり、または、現在のプロファイルをデフォルト設定に復元したり、さらに、Surround Sound(サラウンドサウンド)およびさまざまな機能にアクセスできます。
2	マイクروفोन	このタブから、現在のマイクデバイスを消音にしたり、2つの工場出荷時マイクプロファイルから選択したり、すべてのマイクروفोन効果をオン/オフにしたり、または、現在のプロファイルをデフォルト設定に復元したり、さらに、Static Noise Suppression(静的ノイズ抑制)およびさまざまな機能にアクセスできます。

3	サウンドトラッカー	Sound Tracker(サウンドトラッカー)は、ゲーム中に、音源の位置を視覚的に表示します。サウンドの方向を示すダイナミックセグメントで表示されます。ダイナミックセグメントが不透明なほどサウンドが強くなります。
4	設定	このタブから、ソフトウェアのすべての設定と情報にアクセスできます。

第3章 UEFI セットアップ ユーティリティ

3.1 はじめに

ASRock UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) は、高度な表示インターフェースで調整しやすいオプションを提供する BIOS ユーティリティです。UEFI システムは USB マウスで動作し、ユーザーに高速で洗練されたエクスペリエンスを提供します。

この BIOS ユーティリティは、システムの起動時に POST (Power-On Self-Test) を実行したり、システムのハードウェア パラメーターを記録したり、オペレーティング システムをロードすることができます。マザーボードのバッテリーは、システムの電源がオフになっているときに CMOS に必要な電力を供給し、UEFI ユーティリティで構成された値は CMOS に保持されます。

BIOS 設定が不適切であると、システムが不安定になったり、誤動作したり、起動に失敗したりする可能性がありますので注意してください。UEFI のデフォルト構成を変更しないこと、あるいはトレーニングを受けたサービス担当者の支援がある場合にのみ設定を変更することを強くお勧めします。

設定を変更した後、システムが不安定になったり、起動に失敗した場合は、CMOS 値をクリアして、ボードをデフォルト値にリセットしてみてください。手順については、マザーボードのマニュアルを参照してください。

3.1.1 BIOS セットアップに入る

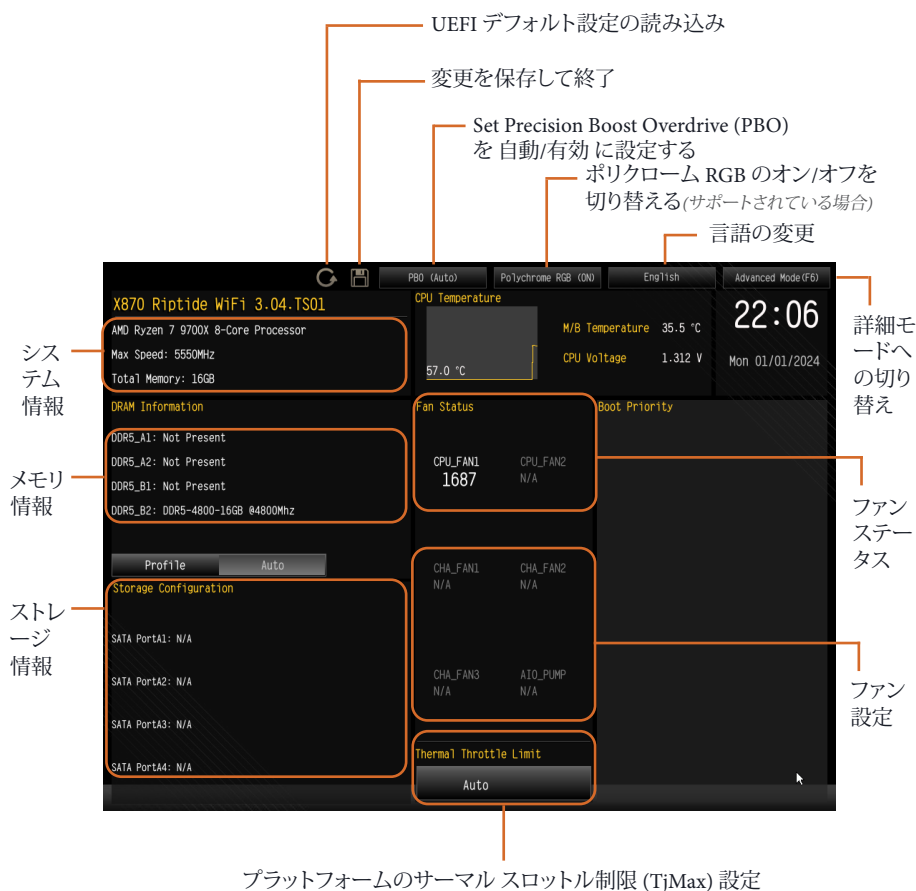
UEFI セットアップ ユーティリティ は、コンピューターに電源を入れた直後に <F2> または を押すことによって起動できます。ユーティリティを起動しなければ、電源投入時セルフテスト (POST) が通常のテストを開始します。POST の後に UEFI セットアップ ユーティリティを開始するには、<Ctrl> + <Alt> + <Delete> または本体のリセットボタンを押して、システムを再起動します。システムをシャットダウンした後、再度電源を入れても、ユーティリティを起動することができます。

このセットアップ ガイドでは、UEFI セットアップ ユーティリティを使用して、サポートされているすべてのシステムを構成する方法について説明します。このマニュアルのスクリーンショットは参考用です。UEFI 設定とオプションは、異なる BIOS リリース バージョンまたは取り付けられている CPU によって異なる場合があります。詳細な画面、設定、オプションについては、購入したマザーボードの実際の BIOS バージョンを参照してください。

3.1.2 EZ モード

デフォルトでは、BIOS セットアッププログラムに入ると、EZ モード画面が表示されます。EZ モードは、システムの現在のステータスの複数の読み取り値を含むダッシュボードです。CPU 速度、DRAM 周波数、SATA 情報、ファン速度など、システムの最も重要な情報を確認できます。

<F6> を押すか、画面の右上隅にある「Advanced Mode (詳細モード)」ボタンをクリックして、「Advanced Mode (詳細モード)」に切り替えて、より多くのオプションを表示します。



3.1.3 詳細モード

「Advanced Mode (詳細モード)」では、BIOS 設定を構成するためのより多くのオプションが提供されます。詳細な構成については、次のセクションを参照してください。

EZ モードにアクセスするには、<F6> を押すか、画面の右上隅にある「EZ Mode (EZ モード)」ボタンをクリックします。

3.1.4 UEFI メニュー バー

画面上部には、以下が並んだメニューバーがあります：

Main (メイン)	システムの時間 / 日付情報の設定
OC Tweaker (OC 調整)	オーバークロック構成
Advanced (詳細)	システムの詳細構成
Tool (ツール)	便利なツール
H/W Monitor (H/W モニター)	現在のハードウェア ステータスを表示
Security (セキュリティ)	セキュリティ設定
Boot (起動)	起動設定および起動の優先順位の構成
Exit (終了)	現在の画面または UEFI セットアップ ユーティリティを終了



UEFI ソフトウェアは常に更新されているため、以下の UEFI セットアップ画面と説明は参照のみを目的としています。また、最新の BIOS とは異なる場合があり、画面に表示される内容と正確に一致しない場合があります。



BIOS 設定の調整、アンタイドオーバークロックテクノロジーの適用、サードパーティのオーバークロックツールの使用などを含み、オーバークロックには、一定のリスクを伴いますのでご注意ください。オーバークロックするとシステムが不安定になったり、システムのコンポーネントやデバイスが破損することがあります。ご自分の責任で行ってください。弊社では、オーバークロックによる破損の責任は負いかねますのでご了承ください。

3.1.5 ナビゲーション キー

メニュー バーのカテゴリを選択するには、<←> キーまたは <→> キーを使用します。カーソルを上下に動かし項目を選択するには、<↑> キーまたは <↓> キーを使用し、<Enter> を押してサブ画面に移動します。マウスでクリックして、必要な項目を選択することもできます。

各ナビゲーション キーの説明は、以下の表でご確認ください。

ナビゲーション キー	説明
+ / -	選択した項目のオプションを変更
<Tab>	次の機能に切替え
<PGUP>	前のページへ
<PGDN>	次のページへ
<HOME>	画面の最初へ
<END>	画面の最後へ
<F1>	一般的なヘルプ画面を表示
<F4>	BIOS 項目を検索
<F6>	簡単モードと詳細モードを切り替える
<F7>	変更をキャンセルして、セットアップ ユーティリティを終了
<F9>	すべての設定で最適な既定値を読み込み
<F10>	変更を保存して、セットアップ ユーティリティを終了
<F12>	プリント スクリーン
<ESC>	終了画面へジャンプまたは現在の画面を終了

3.2 Main (メイン) 画面

UEFI セットアップ ユーティリティに入ると、メイン画面が現れ、システムの概要が表示されます。



UEFI ソフトウェアは、常に更新されているため、以下の設定画面および説明は参照のみを目的としており、実際の画面と必ずしも一致しない場合があります。オプションは、マザーボードの機能によっても異なる場合があります。実際の設定とオプションについては、マザーボードの BIOS を参照してください。

3.3 OC Tweaker (OC 調整) 画面

OC 調整画面では、オーバークロック機能を設定できます。



Performance Preset (パフォーマンスプリセット)

事前構成されたパフォーマンスプリセットを選択できます。構成オプションはモデルによって異なります。構成オプションには、[Auto (自動)] [PBO Enabled (PBO 有効)] [PBO and Tjmax = 85°C (PBO および Tjmax = 85°C)] [PBO, Tjmax = 85°C and Curve Optimizer -20mV (PBO, Tjmax = 85°C および曲線オプティマイザー -20 mV)] [PBO, Tjmax = 85°C and Curve Optimizer -30mV (PBO, Tjmax = 85°C および曲線オプティマイザー -30 mV)] [PBO, Tjmax = 85°C and Curve Optimizer -40mV (PBO, Tjmax = 85°C および曲線オプティマイザー -40 mV)] などが含まれます。

Platform Thermal Throttle Limit (TjMax) (プラットフォームのサーマルスロットル制限 (TjMax))

プロセッサの最大許容温度 (摂氏) を下げることができます。

GFX Overclocking (GFX オーバークロック)

GFX Overclocking (GFX オーバークロック) 設定を構成できます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Customize (カスタマイズ)]

DRAM Frequency (DRAM 周波数)

[Auto (自動)] が選択されている場合、マザーボードは挿入されているメモリモジュールを検出し、適切な周波数を自動的に割り当てます。

DRAM Profile Configuration (DRAM プロファイル構成)

[Enter] を押して DRAM profile (DRAM プロファイル) を構成します。

DRAM Profile Setting (DRAM プロファイル設定)

EXPO/XMP 設定を読み込んで DDR5 メモリをオーバークロックし、標準仕様を上回る性能を実現します。

DRAM Performance Mode (DRAM パフォーマンス モード)

DRAM Performance Mode (DRAM パフォーマンス モード) 設定を構成できます。

DRAM Timing Configuration (DRAM タイミング構成)

[Enter] を押して DRAM Timing (DRAM タイミング) を構成します。

DRAM Bus Control Configuration (DRAM バス制御構成)

DRAM Bus Control (DRAM バス制御) 設定を構成できます。

DFE Read Training (DFE 読み取りトレーニング)

この項目は、DFE がオンの状態で 2D 読み取りトレーニングを実行します。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

Gear Down Mode (ギア ダウン モード)

Gear Down Mode (ギア ダウン モード) を構成します。

CAS# Latency (tCL) (CAS# レイテンシー (tCL))

カラム アドレスのメモリへの送信から、データが応答までの時間。

RAS# to CAS# Delay to Read (tRCDRD) (RAS# から CAS# までの読み取り遅延 (tRCDRD))

メモリの行を開いてから、そのうちの列へのアクセスまでに要するクロックサイクル数。

Row Precharge Time (tRP) (行プリチャージ時間 (tRP))

プリチャージ コマンドを発行してから、次の行が開かれるまでに要するクロックサイクル数。

RAS# Active Time (tRAS) (RAS# アクティブ時間 (tRAS))

バンク アクティブ コマンドから、プリチャージ コマンドを発行するまでに要するクロックサイクル数。

RAS# Cycle Time (tRC) (RAS# サイクル タイム (tRC))

activate コマンドから別の activate コマンドまでのメモリ クロック サイクル数。

Write Recovery Time (tWR) (書き込み回復時間 (tWR))

有効な書き込み操作の完了後、アクティブなバンクがプリチャージされるまでに必要な遅延量。

Refresh Cycle Time (tRFC) (リフレッシュ サイクル時間(tRFC1))

Refresh Recovery Delay Time (リフレッシュ回復遅延時間)を指定します。

Refresh Cycle Time (tRFC) (リフレッシュ サイクル時間(tRFC2))

Refresh Recovery Delay Time (リフレッシュ回復遅延時間)を指定します。

Refresh Cycle Time (tRFCsb) (リフレッシュ サイクル時間 (tRFCsb))

Refresh Recovery Delay Time (リフレッシュ回復遅延時間)を指定します。

Read to Precharge (tRTP) (読み取りからプリチャージまで (tRTP))

読み取りコマンドから、同じランクへの行のプリチャージ コマンドまでに挿入されたクロック数。

RAS to RAS Delay (tRRD_L) (RAS から RAS までの遅延 (tRRD_L))

同じランクの異なるバンクで有効化された 2 つの行の間のクロック数。

RAS to RAS Delay (tRRD_S) (RAS から RAS までの遅延 (tRRD_S))

同じランクの異なるバンクで有効化された 2 つの行の間のクロック数。

Four Activate Window (tFAW) (4 つのアクティベート ウィンドウ (tFAW))

4 つのアクティベートが同じランクで許可される時間枠を指定します。

Write to Read Delay (tWTR_L) (書き込みから読み取りまでの遅延 (tWTR_L))

最後の有効な書き込み操作から、同じ内部バンクへの次の読み取りコマンドまでのクロック数。

Write to Read Delay (tWTR_L) (書き込みから読み取りまでの遅延 (tWTR_L))

最後の有効な書き込み操作から、同じ内部バンクへの次の読み取りコマンドまでのクロック数。

TrdrdScL

同じバンクグループの同じチップセットにおける、最初の読み取りバースト操作の仮想 CAS の最後のクロックから、次の読み取りバースト操作に対して CAS がアサートされるクロックまでのサイクルの最小数。

TrdrdSc

同じチップ選択における、最初の読み取りバースト操作の仮想 CAS の最後のクロックから、次の読み取りバースト操作に対して CAS が適用されるクロックまでのサイクルの最小数。

TrdrdSd

同じ DIMM における、最初の読み取りバースト操作の仮想 CAS の最後のクロックから、次の読み取りバースト操作に対して CAS が適用されるクロックまでのサイクルの最小数。

TrdrdDd

異なる DIMM における、最初の読み取りバースト操作の仮想 CAS の最後のクロックから、次の読み取りバースト操作に対して CAS が適用されるクロックまでのサイクルの最小数。

TwrrwrScL

同じバンクグループにおける、最初の書き込みバースト操作の仮想 CAS の最後のクロックから、次の書き込みバースト操作に対して CAS が適用されるクロックまでのサイクルの最小数。

TwrrwrSc

同じチップ選択における、最初の書き込みバースト操作の仮想 CAS の最後のクロックから、次の書き込みバースト操作に対して CAS が適用されるクロックまでのサイクルの最小数。

TwrrwrSd

同じ DIMM における、最初の書き込みバースト操作の仮想 CAS の最後のクロックから、次の書き込みバースト操作に対して CAS が適用されるクロックまでのサイクルの最小数。

TwrrwrDd

異なる DIMM における、最初の書き込みバースト操作の仮想 CAS の最後のクロックから、次の書き込みバースト操作に対して CAS が適用されるクロックまでのサイクルの最小数。

Twrrd

最初の書き込みバースト操作の仮想 CAS の最後のクロックから、次の読み取りバースト操作に対して CAS が適用されるクロックまでのサイクルの最小数。

Trdwr

最初の読み取りバースト操作の仮想 CAS の最後のクロックから、次の書き込みバースト操作に対して CAS が適用されるクロックまでのサイクルの最小数。

VDDIO Voltage (VDDIO 電圧) (VDDIO_MEM_S3)

VDDIO は DDR バス シグナリング (PHY) の電圧であり、DRAM 電圧 (VDDIO_MEM_S3) から導出されます。結果、VDDP 電圧に達することがありますが、DRAM 電圧を超えることはありません。 $VDDIO > VDDP + 0.1V$ 、 $VDDIO + 0.1V > VDD_SOC$

DRAM VDD Voltage (DRAM VDD 電圧)

DRAM 側の PMIC によってサポートされる VDD Voltage (VDD 電圧) を構成できます。

DRAM VDDQ Voltage (DRAM VDDQ 電圧)

DRAM 側の PMIC によってサポートされる VDDQ Voltage (VDDQ 電圧) を構成できません。

DRAM VPP Voltage (DRAM VPP 電圧)

DRAM 側の PMIC によってサポートされる VPP Voltage (VPP 電圧) を構成できます。

Infinity Fabric Frequency (Infinity Fabric 周波数)

Infinity Fabric Frequency (FCLK) (Infinity Fabric 周波数) を設定できます。大抵の場合、最高のパフォーマンスを得るには、FCLK を MCLK より小さくしなければなりません。

UCLK DIV1 MODE (UCLK DIV1 モード)

UCLK DIV1 mode (UCLK DIV1 モード) を設定できます。

SoC/Uncore OC Voltage (SoC/Uncore OC 電圧) (VDD_SOC)

SoC/Uncore 電圧 (VDD_SOC) を指定して、メモリと Infinity Fabric のオーバークロックをサポートできます。VDD_SOC は、グラフィックスが統合されたプロセッサの GPU 電圧も決定します。

VDD Misc Voltage (VDD その他の電圧)

VDDG はファブリック データ バスの電源であり、VDDCR_MISC から導出されます。メモリをオーバークロックする際は、VDDG を増やさなければならない場合があります。

VDDG CCD Voltage (VDDG CCD 電圧)

VDDG はファブリック データ バスの電源であり、VDDCR_MISC から導出されます。メモリをオーバークロックする際は、VDDG を増やさなければならない場合があります。

VDD IOD Voltage (VDD IOD 電圧)

VDDG はファブリック データ バスの電源であり、VDDCR_MISC から導出されます。メモリをオーバークロックする際は、VDDG を増やさなければならない場合があります。

VDDP Voltage (VDDP 電圧)

VDDP は DDR5 バス シグナリング (PHY) の電圧であり、VDDIO_MEM_S3 から導出されます。VDDP 電圧は VDDIO 電圧に近づくことはありますが、超えることはありません。

オーバークロック モード (バス速度)

オーバークロック モードを選択できます。警告! オーバークロックすると、PCIe、PCI、SATA、USB バスもオーバークロックされ、不安定になるか、障害を引き起こす可能性があります。オーバークロックする前に必要なオペレーティング システムとドライバをインストールしてください。そうしないと、HDD が検出されない可能性があります。モニターがオンボード D-Sub/VGA コネクタ経由で接続されている場合、オーバークロックはサポートされません。

構成オプション: [Auto (自動)] [Manual (手動)]

External Voltage Settings (外部電圧設定)

[Enter] を押して電圧オプションを構成します。

VDD_MISC Voltage (VDD_MISC 電圧)

外部電圧レギュレーターによるプロセッサ電圧を入力します。

構成オプション: [Auto (自動)][Offset Mode (オフセットモード)]

PCH 1.05V Voltage (PCH 1.05V 電圧)

PCH 1.05V Voltage (PCH 1.05V 電圧) の電圧を構成します。

VDD_MISC_S5 Voltage (1.8VSB 電圧)

VDD_MISC_S5 Voltage (VDD_MISC_S5 電圧) の電圧を構成します。

Save User Default (ユーザー定義の保存)

設定をユーザー定義として保存するには、プロファイル名を入力し、<Enter> を押します。

Load User Default (ユーザー定義の読み込み)

前回保存したユーザー定義を読み込みます。

Save User UEFI Setup Profile to Disk (ユーザー UEFI セットアップ プロファイルをディスクに保存)

現在の UEFI 設定をユーザーデフォルトプロファイルとしてディスクに保存します。

Load User UEFI Setup Profile to Disk(ユーザー UEFI セットアッププロファイルをディスクに読み込む)

前に保存したユーザーデフォルトをディスクから読み込みます。

3.4 Advanced (詳細) 画面

このセクションでは、以下の項目を設定できます：CPU Configuration (CPU 構成)、PCI Configuration (PCI 構成)、Onboard Devices Configuration (オンボード デバイス 構成)、Storage Configuration (ストレージ構成)、ACPI Configuration (ACPI 構成)、USB Configuration (USB 構成)、Trusted Computing (トラステッド コンピューティング)、AMD CBS、AMD PBS、AMD Overclocking (AMD オーバークロック)。



このセクションで誤った値を設定すると、システムの誤作動の原因になることがあります。

BIOS Setup Text Color (BIOS セットアップのテキストの色)

BIOS Setup Text Color (BIOS セットアップのテキストの色) を設定できます。

構成オプション：[Default (デフォルト)] [Deep Red (暗い赤色)] [Red (赤色)] [Orange (オレンジ色)] [Yellow (黄色)] [Light Green (明るい緑色)] [Green (緑色)] [Light Blue (明るい青色)] [Blue (青色)] [Deep Blue (暗い青色)] [Purple (紫色)] [Color Code (カラーコード)]

Mouse Relative Movement Delta (マウス相対移動デルタ)

Mouse Relative Movement Delta (マウス相対移動デルタ) を設定できます。Relative Mouse (相対マウス) は、画面上の絶対位置への移動ではなく、最後のマウス位置からのデルタとしてマウスの動きを変換する方法です。

構成オプション：[X 1] [X 2] [X 4]

Active Page on Entry (開始時のアクティブ ページ)

UEFI セットアップ ユーティリティに入るときのデフォルト ページを選択できます。

構成オプション: [Main (メイン)] [OC Tweaker] [Advanced (詳細)] [Tool (ツール)]
[H/W Monitor (H/W モニター)] [Security (セキュリティ)] [Boot (ブート)] [Exit (終了)]

Full HD UEFI BIOS (フル HD UEFI BIOS)

[Auto (自動)]

[Auto (自動)] を選択すると解像度は 1920 x 1080 に設定されます (ご使用のモニターがフル HD に対応している場合)。モニターがフル HD 非対応であれば、解像度は 1024 x 768 に設定されます。

[Disabled (無効)]

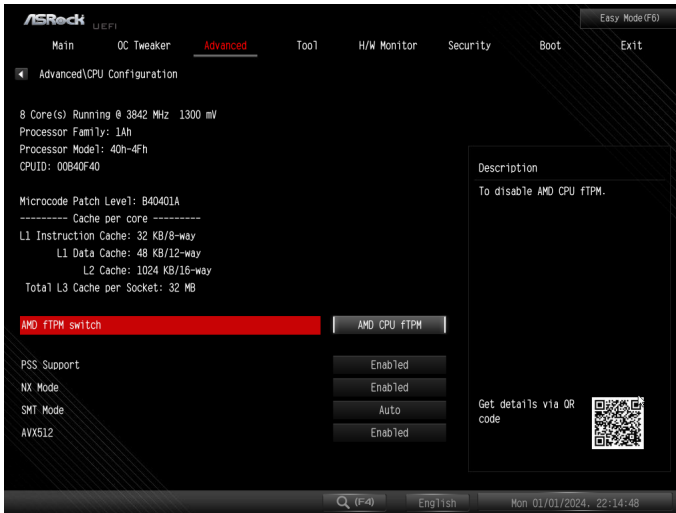
[Disabled (無効)] を選択すると、解像度は 1024 x 768 に直接設定されます。

UEFI Setup Style (UEFI セットアップ スタイル)

UEFI セットアップ ユーティリティに入るときのデフォルト モードを選択します。

構成オプション: [Advanced Mode (詳細モード)] [Easy Mode (簡単モード)]

3.4.1 CPU Configuration (CPU 構成)



AMD fTPM Switch (AMD fTPM スイッチ)

この項目を使用して AMD CPU fTPM を有効または無効にします。

構成オプション: [AMD CPU fTPM] [Route to SPI TPM (SPI TPMへのルーティング)]
[Disabled (無効)]

PSS Support (PSS サポート)

ACPI_PPC、_PSS、および _PCT オブジェクトの世代を有効または無効にできます。

NX Mode (NX モード)

非実行ページ保護機能を有効または無効にすることができます。

SMT Mode (SMT モード)

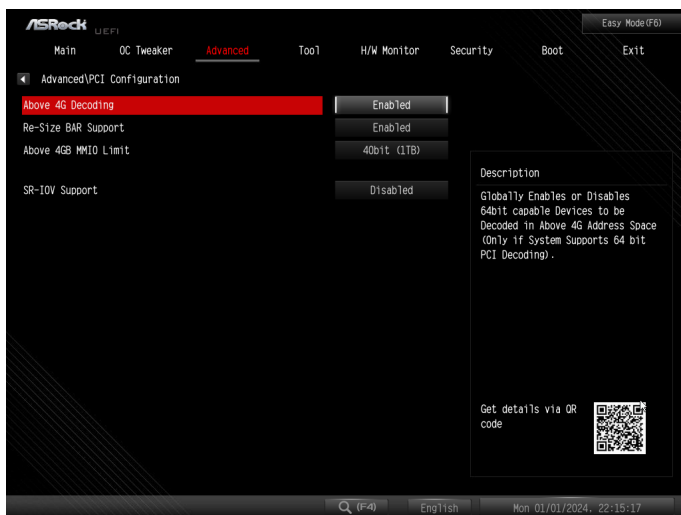
この項目を使用して対称型マルチスレッドを無効にできます。SMT をもう一度有効にするには、[Auto(自動)] を選択した後でパワーサイクルが必要です。

警告: SMT が無効の場合は、システム上では S3 に対応しません。

AVX512

この項目を使用して、AVX512 を有効または無効にすることができます。

3.4.2 PCI Configuration (PCI 構成)



Above 4G Decoding (4G を超えるデコーディング)

4G 以上のアドレス空間での 64 ビット対応デバイスのデコードをグローバルに有効または無効にします (システムが 64 ビット PCI デコードをサポートしている場合のみ)。

Re-Size BAR Support (BAR のサイズ変更のサポート)

システムにサイズ変更可能な BAR 対応の PCIe デバイスがある場合、このオプションはサイズ変更可能な BAR のサポートを有効または無効にします。

Above 4GB MMIO Limit (4GB MMIO 制限を超える)

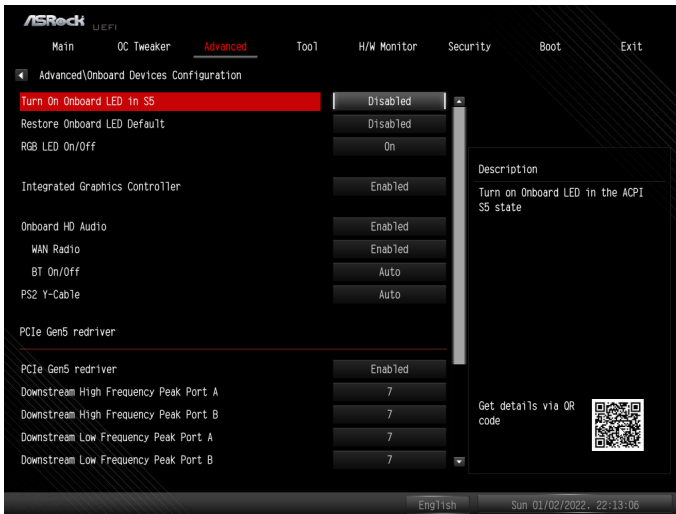
4GB 以上の MMIO 制限を 38 ～ 43 ビットの制限に選択できます。このオプションは、「Above 4G decoding (4G 以上のデコード)」が有効になっている場合にのみ機能します。

構成オプション: [40 ビット (1TB)] [41 ビット (2TB)] [42 ビット (4TB)] [43 ビット (8TB)] [44 ビット (16TB)] [45 ビット (32TB)] [46 ビット (64TB)] [47 ビット (126TB)] [48 ビット (256TB)]

SR-IOV Support (SR-IOV サポート)

システムに SR-IOV 対応デバイスがある場合は、このオプションで Single Root IO Virtualization Support (シングルルート IO 仮想化サポート) を有効または無効にします。

3.4.3 Onboard Devices Configuration(オンボード デバイス 構成)



Turn On Onboard LED in S5(S5 で オンボード LED をオンにします)
ACPI S5 状態で LED をオン/オフできます。

[Disabled (無効)] この項目を選択して、ACPI S5 状態で LED をオフにします。

[Enabled (有効)] この項目を選択して、ACPI S5 状態で LED をオンにします。

Restore Onboard LED Default (オンボード LED デフォルトを復元する)
オンボード LED のデフォルト値を復元できます。

[Disabled (無効)] オンボード LED のデフォルト値を復元しない場合は、この項目を選択します。

[Apply (適用)] オンボード LED のデフォルト値を復元する場合は、この項目を選択します。

RGB LED

RGB LED を有効または無効にできます。

[On (オン)] この項目を選択して、RGB LED を有効にします。

[Off (オフ)] この項目を選択して、RGB LED を無効にします。

Display Priority (表示優先度)

Display Priority (表示優先度) を選択できます。

構成オプション: [Internal Graphic (内部グラフィック)] [External Graphic (外部グラフィック)]

Onboard HD Audio (内蔵 HD オーディオ)

内蔵 HD オーディオを有効または無効にできます。

Onboard LAN (オンボード LAN)

Onboard LAN (オンボード LAN) を有効または無効にできます。

WAN Radio (WAN ラジオ)

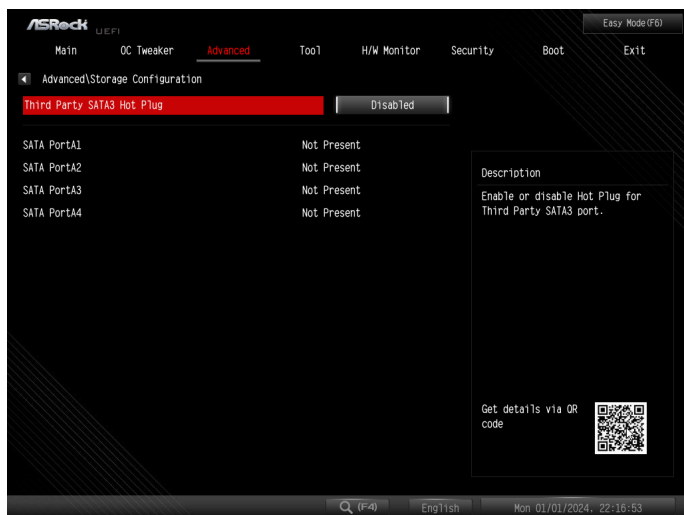
Wi-Fi モジュールの接続を構成できます。

BT On/Off (BT オン/オフ)

Bluetooth を有効または無効にできます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

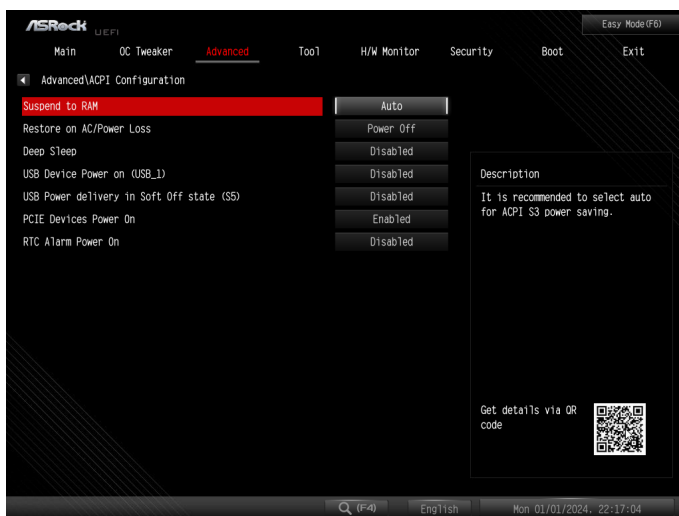
3.4.4 Storage Configuration (ストレージ構成)



Third Party SATA3 Hot Plug (サードパーティ SATA3 ホットプラグ)

この項目を使用すると、サードパーティの SATA3 ポートのホットプラグを有効または無効にすることができます。

3.4.5 ACPI Configuration (ACPI 構成)



Suspend to RAM (RAM へのサスペンド)

[Auto] (自動) として電力消費の少ない ACPI S3 を選択することをお勧めします。

構成オプション: [Disabled (無効)] [Auto (自動)]

Restore on AC/Power Loss (AC/電源損失で復元)

停電後の電源状態を選択できます。

[Power Off (電源オフ)] この項目を選択すると、電源が回復しても電源はオフのままになります。[Power On (電源オン)] この項目を選択すると、電源が回復したときにシステムが起動し始めます。

構成オプション: [Power On (電源オン)] [Power Off (電源オフ)]

Deep Sleep (ディープ スリープ)

コンピューターのシャットダウン時に省電力のためにディープ スリープ モードを構成できます。システムの互換性と安定性を優先される場合、ディープ スリープ モードを無効にするようにお勧めします。

構成オプション: [Disabled (無効)] [Enabled in S5 (S5 で有効)] [Enabled in S4 & S5 (S4 および S5 で有効)]

USB Devices Power On (USB デバイスによる電源オン) (USB_1)

USB キーボードまたは USB マウスでシステムの電源を入れます。指定されたポートに USB キーボードまたは USB マウスを接続してください。AM5 ソケット CPU および AGESA は更新される可能性があるため、このオプションの機能は予告なく変更される場合があります。

構成オプション: [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

USB Power Delivery in Soft Off State (S5) (ソフト オフ状態 (S5) の USB 電源供給)

この項目を使用すると、USB Power Delivery in Soft Off State (S5) (ソフト オフ状態 (S5) の USB 電源供給) を有効または無効にすることができます。

PCIe Devices Power On (PCIe デバイスによる電源オン)

[Enabled (有効)] この項目を選択して、システムが PCIe デバイスによってウェイクアップできるようにし、Wake on LAN を有効にします。

[Disabled (無効)] この項目を選択すると、PCIe デバイスによるシステムのウェイクアップが許可されず、Wake on LAN が無効になります。

RTC Alarm Power On (RTC アラームによる電源オン)

[Enabled (有効)]

この項目を選択すると、システムがリアルタイム クロック アラームによってウェイクアップできるようになります。

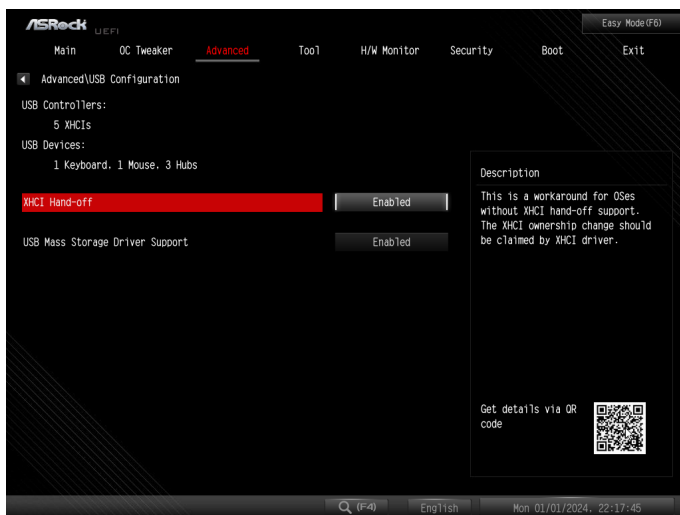
[Disabled (無効)]

この項目を選択すると、リアルタイム クロック アラームによるシステムのウェイクアップが許可されません。

[By OS (OS による)]

この項目を選択して、オペレーティング システムで取り扱うようにします。

3.4.6 USB Configuration(USB 構成)



XHCI Hand-off (XHCI ハンドオフ)

これは、XHCI ハンドオフがサポートされていない OS の回避策です。XHCI 所有権の変更は、XHCI ドライバーによって要求される必要があります。

構成オプション: [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

USB Mass Storage Driver Support (USB 大容量ストレージドライバのサポート)

この項目を使用すると、USB Mass Storage Driver Support (USB 大容量ストレージドライバのサポート) を有効または無効にすることができます。

3.4.7 Trusted Computing(トラステッド コンピューティング)



注: オプションは接続されている TPM モジュールのバージョンにより異なります。

Security Device Support (セキュリティ デバイス サポート)

セキュリティ デバイスの BIOS サポートを有効または無効にできます。OS はセキュリティ デバイスを表示しません。TCG EFI プロトコルと INT1A インターフェースは使用できなくなります。

Active PCR banks (アクティブ PCR バンク)

この項目により、Active PCR banks (アクティブ PCR バンク) を表示することができます。

Available PCR Banks (利用可能 PCR バンク)

この項目により、Available PCR Banks (利用可能 PCR バンク) を表示することができます。

SHA256 PCR Bank (SHA256 PCR バンク)

SHA256 PCR Bank (SHA256 PCR バンク) を有効または無効にできます。

SHA384 PCR Bank (SHA384 PCR バンク)

SHA384 PCR Bank (SHA384 PCR バンク) を有効または無効にできます。

Pending Operation (保留中の操作)

セキュリティ デバイスの操作をスケジュールできます。

注：デバイスの状態を変更するために、コンピューターは再起動中に再起動します。

構成オプション：[None (なし)] [TPM Clear (TPM クリア)]

Platform Hierarchy (プラットフォーム階層)

Platform Hierarchy (プラットフォーム階層) を有効または無効にできます。

Storage Hierarchy (ストレージ階層)

Storage Hierarchy (ストレージ階層) を有効または無効にできます。

Endorsement Hierarchy (エンドースメント階層)

Endorsement Hierarchy (エンドースメント階層) を有効または無効にできます。

Physical Presence Spec version (Physical Presence Spec バージョン)

この項目を選択して、OS に PPI 仕様バージョン 1.2 または 1.3 をサポートするように指示できます。一部の HCK テストはバージョン 1.3 をサポートしていない可能性があることに注意してください。

構成オプション：[1.2] [1.3]

Device Select (デバイス選択)

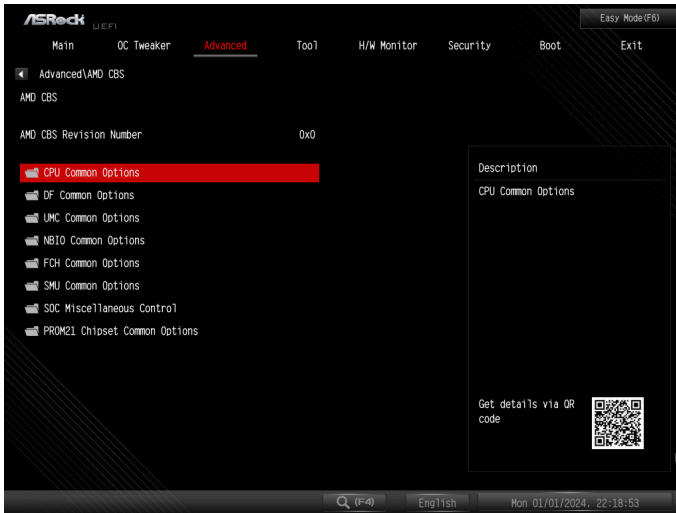
この項目を使用して、サポートする TPM デバイスを選択します。

[TPM 1.2] この項目を選択して、サポートを TPM 1.2 デバイスに制限します。

[TPM 2.0] この項目を選択して、サポートを TPM 2.0 デバイスに制限します。

[Auto (自動)] TPM 1.2 デバイスと 2.0 デバイスの両方をサポートするには、この項目を選択します。デフォルトは TPM 2.0 デバイスに設定されています。TPM 2.0 デバイスが見つからない場合は、TPM 1.2 デバイスが列挙されます。

3.4.8 AMD CBS



注：オプションはマザーボードによって異なる場合があります。実際の設定とオプションについては、マザーボードの BIOS を参照してください。

CPU Common Options (CPU 一般オプション)

[Enter] を押して CPU Common Options (CPU 一般オプション) を構成します。

Thread Enablement (スレッドの有効化)

[Enter] を押して Thread Enablement (スレッドの有効化) を構成します。

SMT Control (SMT コントロール)

この項目を使用して対称型マルチスレッドを無効にできます。SMT をもう一度有効にするには、「Auto (自動)」オプションを選択した後でパワー サイクルが必要です。

Prefetcher Settings (プリフェッチャー設定)

[Enter] を押して Prefetcher Settings (プリフェッチャー設定) を構成します。

L1 Stream HW Prefetcher (L1 ストリーム HW プリフェッチャー)

L1 Stream HW Prefetcher (L1 ストリーム HW プリフェッチャー) を有効または無効にできます。

構成オプション：[Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

L2 Stream HW Prefetcher (L2 ストリーム HW プリフェッチャー)

L2 Stream HW Prefetcher (L2 ストリーム HW プリフェッチャー) を有効または無効にできます。

構成オプション：[Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

L1 Stride Prefetcher (L1 ストライドプリフェッチャー)

個々の命令のメモリ アクセス履歴を使用して、各アクセスが前のアクセスから一定の

距離にある場合に追加の行をフェッチします。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

L1 Region Prefetcher (L1 領域プリフェッチャー)

メモリ アクセス履歴を使用して、特定の命令のデータアクセスの後に他のデータ アクセスが続く傾向がある場合に、追加の行をフェッチします。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

L1 Burst Prefetcher (L1 バースト プリフェッチャー)

この項目を使用して、L1 Burst Prefetch Mode (L1 バースト プリフェッチャー モード) を有効または無効にします。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

L2 Up/Down Prefetcher (L2 アップ/ダウン プリフェッチャー)

メモリ アクセス履歴を使用して、すべてのメモリ アクセスに対して次の行または前の行をフェッチするかどうかを決定します。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

Core Watchdog (コア ウォッチドッグ)

[Enter] を押して Core Watchdog (コア ウォッチドッグ) オプションを構成します。

Core Watchdog Timer Enable (コア ウォッチドッグ タイマーの有効化)

CPU Watchdog Timer (CPU ウォッチドッグ タイマー) を有効または無効にできます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

Core Watchdog Timer Interval (コア ウォッチドッグ タイマーの間隔)

「Core Watchdog Timer Enable (コア ウォッチドッグ タイマーの有効化)」が [Enabled (有効)] に設定されている場合、この項目を使用して Core Watchdog Timer Interval (コア ウォッチドッグ タイマーの間隔) を選択できます。

Core Watchdog Timer Severity (コア ウォッチドッグ タイマーの重大度)

「Core Watchdog Timer Enable (コア ウォッチドッグ タイマーの有効化)」が [Enabled (有効)] に設定されている場合、この項目を使用して Core Watchdog Timer Severity (コア ウォッチドッグ タイマーの重大度) を指定できます。

構成オプション: [No Error (エラーなし)] [Transparent (透過)] [Corrected (修正済)]

[Deferred (延期)] [Uncorrected (未修正)] [Fatal (致命的)] [Auto (自動)]

DF Common Options (DF 一般オプション)

[Enter] を押して DF Common Options (DF 一般オプション) を構成します。

Memory Addressing (メモリ アドレッシング)

[Enter] を押して Memory Addressing (メモリ アドレッシング) オプションを構成します。

Memory interleaving (メモリインターリーピング)

この項目を使用すると、メモリ チャネルのインターリーブを無効にすることができます。

Memory interleaving size (メモリインターリーピングサイズ)

この項目は、メモリ インターリーピング サイズを制御します。有効な値は AUTO (自動)、256 bytes、1 Kbytes または 2Kbytes です。これで、インターリーブ (bit 8、9、10、または、11) の開始アドレスを定義します。

DRAM map inversion (DRAM マップ反転)

マップを反転すると、最も高いメモリ チャンネルにシステム内の最も低いアドレスが割り当てられます。

Location of private memory regions (プライベートメモリリージョンの場所)

この項目は、プライベート メモリ領域 (PSP、SMU、および CC6) が DRAM の上部にあるか、最初の DRAM ペアの上部にあるか、分散しているかを制御します。分散されている場合はすべてのダイでメモリが必要です。このオプションの設定に関わらず、メモリのないダイがある場合は DRAM のトップになります。

構成オプション: [Auto (自動)] [Distributed (分散)] [Consolidated (集約)]
[Consolidated to 1st DRAM pair (1 つ目の DRAM ペアに集約)]

ACPI

[Enter] を押して ACPI オプションを構成します。

ACPI SRAT L3 Cache As NUMA Domain (NUMA ドメインとしての ACPI SRAT L3 キャッシュ)

[Enabled (有効)]: システム内の各 CCX は、個別の NUMA ドメインとして示されます。
[Disabled (無効)]: メモリ アドレス指定 \ ソケットあたりの NUMA ノードが宣言されます。

[Auto(自動)] この項目を選択して、デフォルト設定を適用します。

Disable DF to external downstream IP Sync Flood Propagation (外部ダウンストリーム LIP 同期フラッド プロパゲーションへの DF を無効にする)

この項目を使用すると、UMC または任意のダウンストリーム スレーブ サンプル ECH へのエラー伝搬を無効にすることができます。これを使用して、障害シナリオでのリセットを回避します。

構成オプション: [Auto (自動)] [Sync flood disabled (同期フラッド無効)] [Sync flood enabled (同期フラッド有効)]

Disable DF sync flood propagation (DF 同期フラッド伝搬無効)

この項目を使用すると、PIE から他の DF コンポーネントへ、そして最終的には SDP ポートへの伝達を無効にすることができます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Sync flood disabled (同期フラッド無効)] [Sync flood enabled (同期フラッド有効)]

Freeze DF module queues on error (エラーの際に DF モジュールキューをフリーズ)

この項目を使用すると、エラー時にすべての DF キューのフリーズを有効にし、MCA が無効になっている場合でも HWA で同期フラッドを強制できます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

DR Cstates

DF Cstate 機能が有効な場合、FW はこの機能を有効にするために必要なレジスタをプログラムします。自動オプションの場合、このオプションは Global C State (グローバル C ステート) と同期されることを意味します。

構成オプション: [Auto (自動)] [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

PSP error injection support (PSP エラー インジェクションのサポート)

[True] エラー インジェクションを有効にするには、この項目を選択します。

[Flase] エラー インジェクションを無効にするには、この項目を選択します。

UMC Common Options (UMC 一般オプション)

[Enter] を押して UMC Common Options(UMC 一般オプション)を構成します。

DDR Options (DDR オプション)

[Enter] を押して DDR Options (DDR オプション) を構成します。

DDR Timing Configuration (DDR タイミング構成)

[Enter] を押して DDR Timing Configuration (DDR タイミング構成) を調整します。

DDR Bus Configuration (DDR バス構成)

[Enter] を押して DDR Bus Configuration (DDR バス構成) を調整します。

Processor CK drive strengths (プロセッサ CK ドライブ強度)

この項目を使用して、Processor CK drive strengths (プロセッサ CK ドライブ強度) を指定します。

構成オプション: [Auto (自動)] [120.0 Ohm (120.0 Ω)] [60.0 Ohm (60.0 Ω)]

[Deferred (延期)] [40.0 Ohm (40.0 Ω)] [30.0 Ohm (30.0 Ω)]

Processor CC drive strengths (プロセッサ CC ドライブ強度)

この項目を使用して、Processor CC drive strengths (プロセッサ CC ドライブ強度) を指定します。

構成オプション: [Auto (自動)] [120.0 Ohm (120.0 Ω)] [60.0 Ohm (60.0 Ω)]

[Deferred (延期)] [40.0 Ohm (40.0 Ω)] [30.0 Ohm (30.0 Ω)]

Processor CS drive strengths (プロセッサ CS ドライブ強度)

この項目を使用して、Processor CS drive strengths (プロセッサ CS ドライブ強度) を指定します。

構成オプション: [Auto (自動)] [120.0 Ohm (120.0 Ω)] [60.0 Ohm (60.0 Ω)]

[Deferred (延期)] [40.0 Ohm (40.0 Ω)] [30.0 Ohm (30.0 Ω)]

CA ODT GrupaA

この項目を使用して、CA ODT を指定します。

構成オプション: [Auto (自動)] [RTT_OFF (Disable) (RTT_OFF (無効))] [RZQ/0.5 (480)] [RZQ/1 (240)] [RZQ/2 (120)] [RZQ/3 (80)] [RZQ/4 (60)] [RFU] [RZQ/6 (40)]

CK ODT GrupaA

この項目を使用して、CK ODT を指定します。

構成オプション: [Auto (自動)] [RTT_OFF (Disable) (RTT_OFF (無効))] [RZQ/0.5 (480)] [RZQ/1 (240)] [RZQ/2 (120)] [RZQ/3 (80)] [RZQ/4 (60)] [RFU] [RZQ/6 (40)]

CS ODT GrupaA

この項目を使用して、CS ODT を指定します。

構成オプション: [Auto (自動)] [RTT_OFF (Disable) (RTT_OFF (無効))] [RZQ/0.5 (480)] [RZQ/1 (240)] [RZQ/2 (120)] [RZQ/3 (80)] [RZQ/4 (60)] [RFU] [RZQ/6 (40)]

CA ODT GrupaB

この項目を使用して、CA ODT を指定します。

構成オプション: [Auto (自動)] [RTT_OFF (Disable) (RTT_OFF (無効))] [RZQ/0.5 (480)] [RZQ/1 (240)] [RZQ/2 (120)] [RZQ/3 (80)] [RZQ/4 (60)] [RFU] [RZQ/6 (40)]

CK ODT GroupB

この項目を使用して、CK ODT を指定します。

構成オプション: [Auto (自動)] [RTT_OFF (Disable) (RTT_OFF (無効))] [RZQ/0.5 (480)] [RZQ/1 (240)] [RZQ/2 (120)] [RZQ/3 (80)] [RZQ/4 (60)] [RFU] [RZQ/6 (40)]

CS ODT GroupB

この項目を使用して、CS ODT を指定します。

構成オプション: [Auto (自動)] [RTT_OFF (Disable) (RTT_OFF (無効))] [RZQ/0.5 (480)] [RZQ/1 (240)] [RZQ/2 (120)] [RZQ/3 (80)] [RZQ/4 (60)] [RFU] [RZQ/6 (40)]

Processor ODT Impedance Pull Up P0 (プロセッサ ODT インピーダンス プルアップ P0)

この項目を使用して、Processor ODT Impedance Pull Up P0 (プロセッサ ODT インピーダンス プルアップ P0) を指定します。

Processor ODT Impedance Pull Down P0 (プロセッサ ODT インピーダンス プルダウン P0)

この項目を使用して、Processor ODT Impedance Pull Down P0 (プロセッサ ODT インピーダンス プルダウン P0) を指定します。

Processor DQ drive strengths Pull Up P0 (プロセッサ DQ ドライブ強度 プルアップ P0)

この項目を使用して、Processor DQ Impedance Pull Up P0 (プロセッサ ODT インピーダンス プルアップ P0) を指定します。

Processor DQ drive strengths Pull Down P0 (プロセッサ DQ ドライブ強度 プルダウン P0)

この項目を使用して、Processor DQ Impedance Pull Down P0 (プロセッサ ODT インピーダンス プルダウン P0) を指定します。

Dram ODT Impedance RTT_NOM_WR P0 (ドラム ODT インピーダンス RTT_NOM_WR P0)

この項目を使用して、Dram ODT Impedance RTT_NOM_WR P0 (ドラム ODT インピーダンス RTT_NOM_WR P0) を指定します。

Dram ODT Impedance RTT_NOM_RD P0 (ドラム ODT インピーダンス RTT_NOM_RD P0)

この項目を使用して、Dram ODT Impedance RTT_NOM_RD P0 (ドラム ODT インピーダンス RTT_NOM_RD P0) を指定します。

Dram ODT Impedance RTT_WR P0 (ドラム ODT インピーダンス RTT_WR P0)

この項目を使用して、Dram ODT Impedance RTT_WR P0 (ドラム ODT インピーダンス RTT_WR P0) を指定します。

Dram ODT Impedance RTT_PARK P0 (ドラム ODT インピーダンス RTT_PARK P0)

この項目を使用して、Dram ODT Impedance RTT_PARK P0 (ドラム ODT インピーダンス RTT_PARK P0) を指定します。

Dram ODT Impedance DQS_RTT_PARK P0 (ドラム ODT インピーダンス DQS_RTT_PARK P0)

この項目を使用して、Dram ODT Impedance DQS_RTT_PARK P0 (ドラム ODT インピーダンス DQS_RTT_PARK P0) を指定します。

Dram DQ drive strengths Pull Up P0 (ドラム DQ ドライブ強度 プルアップ P0)

この項目を使用して、Dram DQ drive strengths Pull Up P0 (ドラム DQ ドライブ強度 プルアップ P0) を指定します。

Dram DQ drive strengths Pull Down P0 (ドラム DQ ドライブ強度 プルダウン P0)

この項目を使用して、Dram DQ drive strengths Pull Down P0 (ドラム DQ ドライブ強度 プルダウン P0) を指定します。

Processor ODT Impedance Pull Up P1 (プロセッサ ODT インピーダンス プルアップ P1)

この項目を使用して、Processor ODT Impedance Pull Up P1 (プロセッサ ODT インピーダンス プルアップ P1) を指定します。

Processor ODT Impedance Pull Down P1 (プロセッサ ODT インピーダンス プルダウン P1)

この項目を使用して、Processor ODT Impedance Pull Down P1 (プロセッサ ODT インピーダンス プルダウン P1) を指定します。

Processor DQ drive strengths Pull Up P1 (プロセッサ DQ ドライブ強度 プルアップ P1)

この項目を使用して、Processor DQ Impedance Pull Up P1 (プロセッサ ODT インピーダンス プルアップ P1) を指定します。

Processor DQ drive strengths Pull Down P1 (プロセッサ DQ ドライブ強度 プルダウン P1)

この項目を使用して、Processor DQ Impedance Pull Down P1 (プロセッサ ODT インピーダンス プルダウン P1) を指定します。

Dram ODT Impedance RTT_NOM_WR P1 (ドラム ODT インピーダンス RTT_NOM_WR P1)

この項目を使用して、Dram ODT Impedance RTT_NOM_WR P1 (ドラム ODT インピーダンス RTT_NOM_WR P1) を指定します。

Dram ODT Impedance RTT_NOM_RD P1 (ドラム ODT インピーダンス RTT_NOM_RD P1)

この項目を使用して、Dram ODT Impedance RTT_NOM_RD P1 (ドラム ODT インピーダンス RTT_NOM_RD P1) を指定します。

Dram ODT Impedance RTT_WR P1 (ドラム ODT インピーダンス RTT_WR P1)

この項目を使用して、Dram ODT Impedance RTT_WR P1 (ドラム ODT インピーダンス RTT_WR P1) を指定します。

Dram ODT Impedance RTT_PARK P1 (ドラム ODT インピーダンス RTT_PARK P1)

この項目を使用して、Dram ODT Impedance RTT_PARK P1 (ドラム ODT インピーダンス RTT_PARK P1) を指定します。

Dram ODT Impedance DQS_RTT_PARK P1 (ドラム ODT インピーダンス DQS_RTT_PARK P1)

この項目を使用して、Dram ODT Impedance DQS_RTT_PARK P1 (ドラム ODT インピーダンス DQS_RTT_PARK P1) を指定します。

Dram DQ drive strengths Pull Up P1 (ドラム DQ ドライブ強度 プルアップ P1)

この項目を使用して、Dram DQ drive strengths Pull Up P1 (ドラム DQ ドライブ強度 プルアップ P1) を指定します。

Dram DQ drive strengths Pull Down P1 (ドラム DQ ドライブ強度 プルダウン P1)

この項目を使用して、Dram DQ drive strengths Pull Down P1 (ドラム DQ ドライブ強度 プルダウン P1) を指定します。

Processor ODT Impedance Pull Up P3 (プロセッサ ODT インピーダンス プルアップ P3)

この項目を使用して、Processor ODT Impedance Pull Up P3 (プロセッサ ODT インピーダンス プルアップ P3) を指定します。

Processor ODT Impedance Pull Down P3 (プロセッサ ODT インピーダンス プルダウン P3)

この項目を使用して、Processor ODT Impedance Pull Down P3 (プロセッサ ODT インピーダンス プルダウン P3) を指定します。

Processor DQ drive strengths Pull Up P3 (プロセッサ DQ ドライブ強度 プルアップ P3)

この項目を使用して、Processor DQ Impedance Pull Up P3 (プロセッサ ODT インピーダンス プルアップ P3) を指定します。

Processor DQ drive strengths Pull Down P3 (プロセッサ DQ ドライブ強度 プルダウン P3)

この項目を使用して、Processor DQ Impedance Pull Down P3 (プロセッサ ODT インピーダンス プルダウン P3) を指定します。

Dram ODT Impedance RTT_NOM_WR P3 (ドラム ODT インピーダンス RTT_NOM_WR P3)

この項目を使用して、Dram ODT Impedance RTT_NOM_WR P3 (ドラム ODT インピーダンス RTT_NOM_WR P3) を指定します。

Dram ODT Impedance RTT_NOM_RD P3 (ドラム ODT インピーダンス RTT_NOM_RD P3)

この項目を使用して、Dram ODT Impedance RTT_NOM_RD P3 (ドラム ODT インピーダンス RTT_NOM_RD P3) を指定します。

Dram ODT Impedance RTT_WR P3 (ドラム ODT インピーダンス RTT_WR P3)

この項目を使用して、Dram ODT Impedance RTT_WR P3 (ドラム ODT インピーダンス RTT_WR P3) を指定します。

Dram ODT Impedance RTT_PARK P3 (ドラム ODT インピーダンス RTT_PARK P3)

この項目を使用して、Dram ODT Impedance RTT_PARK P3 (ドラム ODT インピーダンス RTT_PARK P3) を指定します。

Dram ODT Impedance DQS_RTT_PARK P3 (ドラム ODT インピーダンス DQS_RTT_PARK P3)

この項目を使用して、Dram ODT Impedance DQS_RTT_PARK P3 (ドラム ODT インピーダンス DQS_RTT_PARK P3) を指定します。

Dram DQ drive strengths Pull Up P3 (ドラム DQ ドライブ強度 プルアップ P3)

この項目を使用して、Dram DQ drive strengths Pull Up P3 (ドラム DQ ドライブ強度 プルアップ P3) を指定します。

Dram DQ drive strengths Pull Down P3 (ドラム DQ ドライブ強度 プルダウン P3)

この項目を使用して、Dram DQ drive strengths Pull Down P3 (ドラム DQ ドライブ強度 プルダウン P3) を指定します。

DDR Controller Configuration (DDR コントローラの構成)

[Enter] を押して DDR Controller Configuration (DDR コントローラの構成) を調整します。

DDR Power Options (DDR 電源オプション)

[Enter] を押して DDR Power Options (DDR 電源オプション) を構成します。

Power Down Eanble (電源オフの有効化)

DDR 電源オフ モードを有効または無効にできます。

DDR RAS

[Enter] を押してDDR RAS オプションを構成します。

Disable Memory Error Injection (メモリ エラー インジェクションを無効にする)

[True] この項目を選択して、Memory Error Injection (メモリ エラー インジェクション) を有効にします。

[False] この項目を選択して、Memory Error Injection (メモリ エラー インジェクション) を無効にします。

[Auto(自動)] この項目を選択して、デフォルト設定を適用します。

DDR ECC Configuration (DDR ECC 構成)

[Enter] を押して DDR ECC Configuration (DDR ECC 構成) を調整します。

ECC

ECCを有効または無効にできます。Auto (自動) は ECC を有効に設定します。
構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

DDR Security (DDR セキュリティ)

[Enter] を押して DDR Security (DDR セキュリティ) オプションを構成します。

TSME

TSME 設定を構成できます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

Data Scramble(データスクランブル)

Data Scramble (データスクランブル) 設定を構成できます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

DDR Addressing Options (DDR アドレッシング オプション)

[Enter] を押して DDR Addressing Options (DDR アドレッシング オプション) を構成します。

Chipselect Interleaving (チップ選択インターリービング)

ノード 0 に選択された DRAM チップ全体でメモリブロックをインターリーブします。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)]

Address Hash Bank (アドレスハッシュバンク)

バンクアドレス ハッシュバンクを有効または無効にできます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

Address Hash CS (アドレスハッシュ CS)

CS アドレス ハッシュバンクを有効または無効にできます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

Address Hash Subchannel (アドレス ハッシュ サブチャネル)

サブチャネル アドレス ハッシュバンクを有効または無効にできます。

BankSwapMode

BankSwapMode を構成できます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Swap APU (スワップ APU)]

DDR Training Options (DDR トレーニング オプション)

[Enter] を押して DDR Training Options (DDR トレーニング オプション) を構成します。

DFE Read Training (DFE 読み取りトレーニング)

この項目は、DFE がオンの状態で 2D 読み取りトレーニングを実行します。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

DRAM PDA Enumerate ID Programming Mode (DRAM PDA Enumerate ID プログラミング モード)

DRAM PDA Enumerate ID Programming Mode (DRAM PDA Enumerate ID プログラミング モード) を構成できます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Sequential PDA enumeration mode (順次 PDA 列挙モード)] [Legacy PDA enumeration mode (レガシー PDA 列挙モード)]

TX DFE Taps (TX DFE タップ)

TX DFE Taps (TX DFE タップ) の数を指定できます。

PPT Control (PPT コントロール)

PPT Control (PPT コントロール) を指定できます。

DDR Training Runtime Reduction (DDR トレーニング ランタイム短縮)

[Auto (自動)]: デフォルトのコード動作。OC が有効になっている場合、DDR Training Runtime Reduction (DDR トレーニング ランタイム短縮) はデフォルトで無効になります。

[Disabled (無効)]: DDR Training Runtime Reduction (DDR トレーニング ランタイム短縮) を強制的に無効にします。

[Enabled (有効)]: DR Training Runtime Reduction (DDR トレーニング ランタイム短縮) を強制的に有効にします。

RX Burst Length (RX バースト長)

この項目を使用して、読み取りトレーニングの拡張シーケンスを構成します。

Auto (自動) - デフォルトのコード動作。

1 倍のバースト長

2 倍のバースト長

4 倍のバースト長

8 倍のバースト長

TX Burst Length (TX バースト長)

この項目を使用して、書き込みトレーニングの拡張シーケンスを構成します。

Auto (自動) - デフォルトのコード動作。

1 倍のバースト長

2 倍のバースト長

4 倍のバースト長

8 倍のバースト長

RX2D_TrainOpt

この項目を使用して、RX2D_TrainOpt 設定を構成します。

RX2D_DFE

この項目を使用して、Rx DFE を強制的にオンまたはオフにします。

RX2D Voltage Step Size (RX2D 電圧ステップ サイズ) (2^n)

0 = チェックされた値の間に 1 個の DAC 設定

1 = チェックされた値の間に 2 個の DAC 設定

2 = チェックされた値の間に 4 個の DAC 設定

3 = チェックされた値の間に 8 個の DAC 設定

RX2D Voltage Step Size (RX2D 遅延ステップ サイズ) (2^n)

0 = チェックされた値の間に 1 個の LCDL 遅延

1 = チェックされた値の間に 2 個の LCDL 遅延

2 = チェックされた値の間に 4 個の LCDL 遅延

3 = チェックされた値の間に 8 個の LCDL 遅延

TX2D_TrainOpt

この項目を使用して、TX2D_TrainOpt 設定を構成します。

TX2D_DFE

この項目を使用して、Tx DFE を強制的にオンまたはオフにします。

TX2D Voltage Step Size (TX2D 電圧ステップ サイズ) (2^n)

- 0 = チェックされた値の間に 1 個の DAC 設定
- 1 = チェックされた値の間に 2 個の DAC 設定
- 2 = チェックされた値の間に 4 個の DAC 設定
- 3 = チェックされた値の間に 8 個の DAC 設定

TX2D Voltage Step Size (RX2D 遅延ステップ サイズ) (2^n)

- 0 = チェックされた値の間に 1 個の LCDL 遅延
- 1 = チェックされた値の間に 2 個の LCDL 遅延
- 2 = チェックされた値の間に 4 個の LCDL 遅延
- 3 = チェックされた値の間に 8 個の LCDL 遅延

TX2D Voltage Step Size Multiplier (TX2D 電圧ステップ サイズ乗数)

- 0 = 電圧ステップ サイズは変更されません
- 1 = 電圧ステップ サイズは 16 倍されません

RX DFE Taps (RX DFE タップ)

RX DFE Taps (RX DFE タップ) の数を指定できます。

DDR Memory MBIST (DDR メモリ MBIST)

[Enter] を押して DDR Memory MBIST (DDR メモリ MBIST) を構成します。

MBIST Enable (MBIST 有効)

Memory MBIST (メモリ MBIST) を有効または無効にできます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

MBIST Test Mode (MBIST テスト モード)

MBIST Test Mode (MBIST テスト モード) - Interface Mode (インターフェース モード) (単一および複数の CS トランザクションと基本的な接続をテスト) または Data Eye Mode (データ アイ モード) (電圧とタイミングの測定) を選択できます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Interface Mode (インターフェイス モード)] [Data Eye Mode (データ アイ モード)] [Both (両方)]

MBIST Aggressors (MBIST アグレッサー)

MBIST Aggressors (MBIST アグレッサー) を有効または無効にできます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

MBIST Per Bit Slave Die Reporting (MBIST ビット当たりのスレーブダイ報告)

有効にすると、DQ、Chipselect、チャネルごとに ABL ログに 2D データアイ結果が報告されます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

DDR Data Eye (DDR データ アイ)

[Enter] を押して DDR Data Eye (DDR データ アイ) オプションを構成します。

Pattern Select (パターン選択)

Pattern Select (パターン選択) を構成できます。

構成オプション: [PRBS] [SSO] [Both (両方)]

Pattern Length (パターンの長さ)

このトークンは、パターンの長さを決定するのに役立ちます。可能なオプションは N=3...12 です。

Aggressor Channel (アグレッサー チャンネル)

これは、アグレッサー チャンネルを読み取るのに役立ちます。有効になっている場合は、1 つまたは複数のアグレッサー チャンネルから読み取ることができます。

構成オプション: [Disabled (無効)] [1 Aggressor Channel (1 アグレッサー チャンネル)] [3 Aggressor Channels (3 アグレッサー チャンネル)] [7 Aggressor Channels (7 アグレッサー チャンネル)]

DDR Memory Features (DDR メモリの機能)

[Enter] を押して DDR Memory Features (DDR メモリの機能) を構成します。

Memory Context Restore (メモリ コンテキストの復元)

メモリ コンテキスト復元モードを設定できます。有効にすると、可能であれば DRAM の再保持が回避され、POST レイテンシが最小限に抑えられます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

DDR Turnaround Times (DDR ターンアラウンド タイム)

[Enter] を押して DDR Turnaround Times (DDR ターンアラウンド タイム) を構成します。

Read Drift Adjustment (読み取りドリフト調整)

Auto (自動) - Read Drift Adjustment 0 (読み取りドリフト調整 0)

Write Drift Adjustment (書き込みドリフト調整)

Auto (自動) - Write Drift Adjustment 0 (書き込みドリフト調整 0)

NBIO Common Options (NBIO 一般オプション)

[Enter] を押して NBIO Common Options (NBIO 一般オプション) を構成します。

IOMMU

IOMMU を有効または無効にできます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

PCIe ARI Support (PCIe ARI サポート)

PCIe ARI Support (PCIe ARI サポート) を有効または無効にできます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

PCIe All Port ECRC (PCIe 全ポート ECRC)

PCIe All Port ECRC (PCIe 全ポート ECRC) を有効または無効にできます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

Advanced Error Reporting (AER) (詳細エラー報告 (AER))

Advanced Error Reporting (AER) (詳細エラー報告 (AER)) のサポートを有効または無効にすることができます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Supported (サポートあり)] [Not Supported (サポートなし)]

PCIe ARI Enumeration (PCIe ARI 列挙)

各ダウンストリーム ポートの ARI 転送を有効または無効にできます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

GFX Configuration (GFX 構成)

[Enter] を押して GFX Configuration (GFX 構成) を構成します。

dGPU Only Mode (dGPU のみモード)

dGPU が検出された場合に GPU を無効にするには、この項目を使用します。

UMA Version (UMA バージョン)

UMA Version(UMA バージョン) を選択できます。

[Legacy(レガシー)] UMA Legacy Version(UMA レガシー バージョン) の場合は、この項目を選択してください。

[Non-Legacy (非レガシー)] UMA Non Legacy Version(UMA 非レガシー バージョン) の場合は、この項目を選択してください。

[Auto (自動)] Hybrid Secure (ハイブリッド セキュア) の場合は、この項目を選択してください。

GPU Host Translation Cache (GPU ホスト変換キャッシュ)

GPU Host Translation Cache(GPU ホスト変換キャッシュ) を有効または無効にできます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

Audio Configuration (オーディオ構成)

[Enter] を押して Audio Configuration(オーディオ構成) を構成します。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

NB Azalia

HD オーディオ コントローラを有効または無効にできます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

Audio IOs (オーディオ IO)

オーディオ IO コントロールを構成できます。

PCIe loopback Mode (PCIe ループバック モード)

PCIe loopback Mode(PCIe ループバック モード) を有効または無効にできます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

Persistence mode for legacy endpoints (レガシー エンドポイントの永続モード)

Persistence mode for legacy endpoints(レガシー エンドポイントの永続モード) を有効または無効にできます。一部のレガシー PCIe デバイスが検出されない場合は、このオプションを有効にします。

Retimer margining support (リタイマー マージン サポート)

Auto (自動) は Disabled (無効) です。ルート ポート リピーター マージン サポートはデフォルトで有効になっています。

[Enabled (有効)]: リタイマー マージン サポートを有効にします。

[Disabled (無効)]: リタイマー マージンはサポートされていません。

FCH Common Options (FCH 一般オプション)

[Enter] を押して FCH Common Options(FCH 一般オプション) を構成します。

USB Configuration Options (USB 設定オプション)

[Enter] を押して USB Configuration Options (USB 設定オプション) を構成します。

USB0 controller enable (USB0 コントローラの有効化)

USB0 コントローラを有効または無効にできます。

USB1 controller enable(USB1 コントローラの有効化)

USB1 コントローラを有効または無効にできます。

USB2 controller enable(USB2 コントローラの有効化)

USB2 コントローラを有効または無効にできます。

USB0 2.0 port enable(USB0 2.0 ポートの有効化)

[Enter] を押して、USB0 2.0 ポート有効化オプションを構成します。

USB0 2.0 port 0(USB 0 2.0 ポート 1)

USB0 2.0 ポート 0 を有効または無効にできます。

USB0 2.0 port 1(USB0 2.0 ポート 1)

USB0 2.0 ポート 1 を有効または無効にできます。

USB1 2.0 port enable(USB1 2.0 ポートの有効化)

[Enter] を押して、USB1 2.0 ポート有効化オプションを構成します。

USB1 2.0 port 0(USB1 2.0 ポート 1)

USB1 2.0 ポート 0 を有効または無効にできます。

USB1 2.0 port 1(USB1 2.0 ポート 1)

USB1 2.0 ポート 1 を有効または無効にできます。

USB2 2.0 port enable(USB2 2.0 ポートの有効化)

[Enter] を押して、USB2 2.0 ポート有効化オプションを構成します。

USB2 2.0 port 0(USB2 2.0 ポート 1)

USB2 2.0 ポート 0 を有効または無効にできます。

USB0 3.1 port enable(USB0 3.1 ポートの有効化)

[Enter] を押して、USB0 3.1 ポート有効化オプションを構成します。

USB0 3.1 port 0(USB0 3.1 ポート 1)

USB0 3.1 ポート 0 を有効または無効にできます。

USB0 3.1 port 1(USB0 3.1 ポート 1)

USB0 3.1 ポート 1 を有効または無効にできます。

USB1 3.1 port enable(USB1 3.1 ポートの有効化)

[Enter] を押して、USB1 3.1 ポート有効化オプションを構成します。

USB1 3.1 port 0(USB1 3.1 ポート 1)

USB1 3.1 ポート 0 を有効または無効にできます。

USB1 3.1 port 1(USB1 3.1 ポート 1)

USB1 3.1 ポート 1 を有効または無効にできます。

FCH Spread Spectrum(FCH 拡散スペクトラム)

Spread Spectrm (拡散スペクトラム) 機能を有効にするかどうかを選択できます。

SMU Common Options (SMU 一般オプション)

[Enter] を押して SMU Common Options (SMU 一般オプション) を構成します。

TDP Control (TDP コントロール)

[Auto (自動)] この項目を選択して、デフォルトの持続電力制限を使用します。

[Manual (手動)] この項目を選択して、カスタマイズされた持続電力制限を設定します。

ECO Mode (エコ モード)

この項目を使用して、CPU コントロール制限を調整し、65W の熱設計電力内での動作を管理します。

[Enabled (有効)]: 65W プロセッサ電力定義を有効にします。

[Disabled (無効)]: システムはデフォルトのプロセッサ電力定義を使用します。

[Enabled - 105W (有効 - 105W)]: 105W プロセッサ電力定義を有効にします (170W OPN のみ)

PPT Control (PPT コントロール)

[Auto (自動)] この項目を選択して、デフォルトの PPT 制限を使用します。

[Manual (手動)] この項目を選択して、カスタマイズされた PPT 制限を設定します。

Thermal Control (サーマル コントロール)

[Auto (自動)] この項目を選択して、デフォルトの TctlMax を使用します。

[Manual (手動)] この項目を選択して、カスタマイズされた TctlMax を設定します。

TDC Control (TDC コントロール)

[Auto (自動)] この項目を選択して、デフォルトの TDC 制限を使用します。

[Manual (手動)] この項目を選択して、カスタマイズされた TDC 制限を設定します。

EDC Control (EDC コントロール)

[Auto (自動)] この項目を選択して、デフォルトの EDC 制限を使用します。

[Manual (手動)] この項目を選択して、カスタマイズされた EDC 制限を設定します。

VDDP Voltage Control (VDDP 電圧コントロール)

[Auto (自動)] この項目を選択して、デフォルトの VDDP 電圧を使用します。

[Manual (手動)] この項目を選択して、カスタマイズされた VDDP 電圧を設定します。

Infinity Fabric Frequency and Dividers (Infinity Fabric の周波数と分周器)

Infinity Fabric Frequency and Dividers (Infinity Fabric の周波数と分周器) を設定できます。

[Auto (自動)] BIOS がこの設定を自動的に構成します。

SyncFifo Mode Override (SyncFifo モードのオーバーライド)

SyncFifo Mode Override (SyncFifo モードのオーバーライド) を有効または無効にできます。[Auto (自動)] に設定すると、SyncFifo Mode (SyncFifo モード) は無効になります。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

Sustained PowerLimit (持続電力制限)

Sustained PowerLimit (持続電力制限) を調整できます。

Fast PPT Limit (高速 PPT 制限)

Fast PPT Limit (高速 PPT 制限) を調整できます。

Slow PPT Limit (低速 PPT 制限)

Slow PPT Limit (低速 PPT 制限) を調整できます。

Slow PPT Time Constant (低速 PPT 時間定数)

Slow PPT Time Constant (低速 PPT 時間定数) (秒) を調整できます。

GFXOFF

[Enabled (有効)]: GFXOFF 機能を有効にします。

[Disabled (無効)]: GFXOFF 機能を無効にします。

Soc Miscellaneous Control (Soc のその他のコントロール)

[Enter] を押して Soc Miscellaneous Control (Soc のその他のコントロール) を構成します。

Trusted Platform Module (トラステッド プラットフォーム モジュール)

TPM の物理的存在を有効または無効にできます。

Pluton Security Processor (Pluton セキュリティ プロセッサ)

このオプションは、Pluton Security Processor (Pluton セキュリティ プロセッサ) を有効または無効にするために使用されます。

DRTM Support (DRTM サポート)

このオプションは、DRTM Support (DRTM サポート) を有効または無効にするために使用されます。

SMM Isolation Support (SMM 分離サポート)

このオプションは、SMM Isolation (SMM 分離) (SMM Supervisor (SMM スーパーバイザー) と呼ばれます) を有効または無効にするために使用されます。

ABL Console Out Control (ABL コンソール アウト コントロール)

[Enabled (有効)] ABL の ConsoleOut 機能を有効にするには、この項目を選択します。

[Disabled (無効)] ABL の ConsoleOut 機能を無効にするには、この項目を選択します。

PROM21 Chipset Common Options (PROM21 チップセット一般オプション)

[Enter] を押して Chipset Common Options(チップセット一般オプション)を構成します。

PROM21 Chipset PCIe Port Configuration Options (PROM21 チップセット PCIe ポート構成オプション)

[Enter] を押して PROM21 Chipset PCIe Port Configuration Options (PROM21 チップセット PCIe ポート構成オプション) を構成します。

PROM21 Chipset SATA Configuration Options (PROM21 チップセット SATA 構成オプション)

[Enter] を押して PROM21 Chipset SATA Configuration Options (PROM21 チップセット SATA 構成オプション) を構成します。

PROM21 Chipset USB Configuration Options (PROM21 チップセット USB 構成オプション)

[Enter] を押して PROM21 Chipset USB Configuration Options (PROM21 チップセット USB 構成オプション) を構成します。

USB port disablement phase (USB ポート無効化フェーズ)

この項目は、USB port disablement phase (USB ポート無効化フェーズ) を構成するために使用されます。

構成オプション: [Before BIOS Setup (BIOS セットアップ前)] [Before OS Boot (OS 起動前)] [Auto (自動)]

PROM21L.1/3/5 USB Port Configuration Options (PROM21L.1/3/5 USB ポート構成オプション)

[Enter] を押して PROM21L.1/3/5 USB Port Configuration Options (PROM21L.1/3/5 USB ポート構成オプション) を構成します。

PROM21 Chipset SI Configuration Options (PROM21 チップセット SI 構成オプション)

[Enter] を押して PROM21 Chipset SI Configuration Options (PROM21 チップセット SI 構成オプション) を構成します。

Enable Program SI values (プログラム SI 値の有効化)

Program SI values (プログラム SI 値) を有効または無効にできます。コールドリセット後に有効になります。

PROM21 Chipset Revision (PROM21 チップセットのリビジョン)

PROM21 Chipset Revision (PROM21 チップセット) リビジョン設定を構成できます。
構成オプション: [Auto (自動)] [A1] [A2]

Dual PROM21 port number/disable (デュアル PROM21 ポート番号/無効)

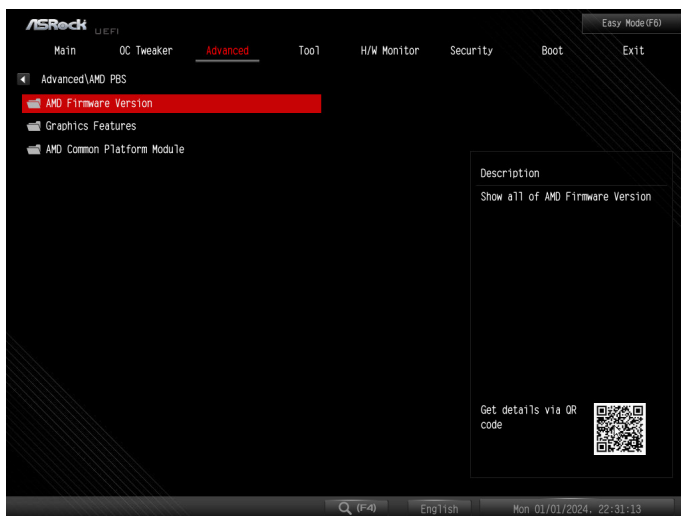
2 番目の PROM21 のダウンストリーム ポート番号を設定できます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Disable (無効)] [Port 0 (ポート 0)] [Port 4 (ポート 4)] [Port 8 (ポート 8)]

PCIe Power Management Features (PCIe 電源管理機能)

PCIe Power Management Features (PCIe 電源管理機能) の設定を調整できます。

3.4.9 AMD PBS



AMD Firmware Version (AMD ファームウェアのバージョン)

[Enter] を押して、すべての AMD ファームウェア バージョンの情報を表示します。

Graphics Features (グラフィック機能)

[Enter] を押して、Graphics Features (グラフィック機能) - HG、DGPU 機能、BOMACO を構成します。

HDMI FRL Test (HDMI FRL テスト)

この項目では、HDMI FRL PATH CAPS を選択できます。

構成オプション: [Auto (自動)] [FRL 8GbEn] [FRL 10GbEn] [FRL 12GbEn] [Disabled (無効)]

HDMI 2.0 Support (HDMI 2.0 サポート)

この項目を使用すると、HDMI 2.0 Support (HDMI 2.0 サポート) を有効または無効にすることができます。無効にすると、より長い HDMI ケーブルをサポートするために HDMI データレートが低下します。

AMD Common Platform Module (AMD 一般プラットフォーム モジュール)

[Enter] を押して AMD Common Platform Module (AMD 一般プラットフォーム モジュール) を構成します。BIOS プロシージャライブラリは、AMD のお客様が AMD プラットフォーム テクノロジを製品に迅速に実装できるように設計されています。

Unused GPP Clocks Off (未使用の GPP クロックをオフ)

未使用の GPP クロックをオン/オフにすることができます。

PM L1 SS

PM L1 SS および ASPM L1 SS を有効または無効にできます。

構成オプション: [Disabled (無効)] [L1.1] [L1.2] [L1.1_L1.2]

PCIe/GFX Lanes Configuration (PCIe/GFX レーン構成)

J10 Slot PCIe Lanes (J10 スロット PCIe レーン) を構成できます。

構成オプション: [Auto (自動)] [x8x8] [x8x4x4] [x4x4x4x4]

PCIe X16 Link Speed (PCIe x16 リンク速度)

PCIe X16 Link Speed (PCIe x16 リンク速度) を構成できます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Gen1]-[Gen5]

M.2_1 Configuration (M.2_1 構成)

M.2_1 Configuration (M.2_1 構成) を有効または無効にできます。

構成オプション: [Enabled (有効)] [Disabled (無効)]

M.2_1 Link Speed (M.2_1 リンク速度)

M.2_1 Link Speed (M.2_1 リンク速度) を構成できます。

構成オプション: [Auto (自動)] [Gen1]-[Gen5]

Chipset Link Speed (チップセット リンク速度)

Chipset Link Speed (チップセット リンク速度) を構成できます。

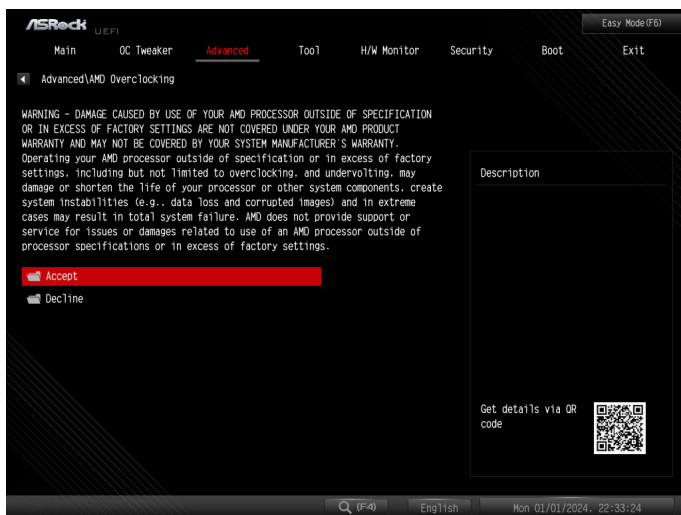
構成オプション: [Auto (自動)] [Gen1]-[Gen4]

NVMe RAID mode(NVMe RAID モード)

NVMe RAID mode. (NVMe RAID モード) を有効または無効にできます。「PCIe/GFX Lanes Configuration (PCIe/GFX レーン構成)」項目は RAID 構成に合わせて設定してください。

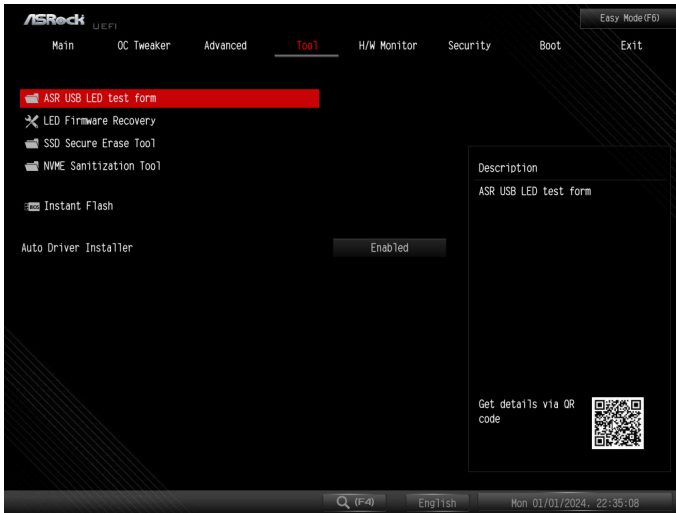
構成オプション: [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

3.4.10 AMD Overclocking (AMD オーバークロックング)



AMD Overclocking (AMD オーバークロックング) メニューで、CPU 周波数と電圧を設定するためのオプションにアクセスします。

3.5 Tool (ツール)



ASR USB LED test form (ASR USB LED テストフォーム)

[Enter] を押して ASR USB LED test form (ASR USB LED テストフォーム) を構成します。

LED Mode (LED モード)

RGB LED Mode (RGB LED モード) を構成できます。

構成オプション: [Off (オフ)] [Static (静的)] [Breathing] [Strobe] [Cycling] [Wave]
[Spring] [Stack] [Cram] [Scan] [Neon] [Water] [Rainbow]

Speed (速度)

LED 速度を 0 ～ 255 の範囲で設定できます。

Brightness (輝度)

LED 輝度を 0 ～ 255 の範囲で設定できます。

Apply to all channel (すべてのチャンネルに適用)

[Enter] を押して、すべてのチャンネルに設定を適用します。

Save current data to MCU (現在のデータを MCU に保存)

[Enter] を押して、現在のデータを MCU に保存します。

LED Firmware Recovery (LED ファームウェアの回復)

[Enter] キーを押すと、「This is a LED firmware recovery process (これは LED ファームウェアの回復プロセスです)」という警告メッセージが表示されます。LED ファームウェアの回復を続行するには「Yes (はい)」を押し、中止するには「No (いいえ)」を押します。

SSD Secure Erase Tool (SSD セキュア消去ツール)

このツールを使用して SSD のデータを完全に消去します。このツールは、Secure Erase (SSD セキュア) 機能をサポートする SSD のみを一覧表示します。

NVME Sanitization Tool (NVME サニタイゼーション ツール)

SSD をサニタイズすると、SSD 上のすべてのユーザーデータが永久的に破壊されて、回復できなくなります。

Instant Flash (インスタント フラッシュ)

UEFI ファイルを USB ストレージ デバイスに保存し、Instant Flash (インスタント フラッシュ) を実行して UEFI を更新できます。

Auto Driver Installer (自動ドライバー インストーラー)

必要なすべてのドライバーを自動的にダウンロードしてインストールできます。

[Enabled (有効)] この項目を選択して、Auto Driver Installer (自動ドライバーインストーラー) ツールを有効にします。有効にすると、インターネットにアクセスできる状態で Windows に入ると、Auto Driver Installer (自動ドライバー インストーラー) ツールが自動的に表示されます。

[Disabled (無効)] この項目を選択して、Auto Driver Installer (自動ドライバーインストーラー) ツールを無効にします。

3.6 Hardware Health Event Monitoring (ハードウェアヘルス イベント監視) 画面

このセクションでは、CPU 温度、マザーボード温度、ファン速度、および電圧などのパラメーターを含め、システムのハードウェアのステータスを監視できます。



注: オプションは、マザーボードの機能によって異なります。

CPU_FAN1 Setting (CPU_FAN1 設定)

CPU ファン 1 のファン モードを選択するか、[Customize (カスタマイズ)] を選択して 5 つの CPU 温度を設定し、各温度にそれぞれのファン速度を割り当てることができます。

構成オプション:

[Customize (カスタマイズ)] [Silent Mode (サイレント モード)] [Standard Mode (標準モード)] [Performance Mode (パフォーマンス モード)] [Full Speed (最高速度)]

CPU_FAN2 Switch (CPU_FAN2 スイッチ)

CPU_FAN2 / W_PUMP ヘッダー機能を切り替えることができます。

構成オプション: [CPU_FAN2] [W_PUMP]

CPU Fan 2 Control Mode (CPU ファン 2 制御モード)

CPU ファン 2 の PWM モードまたは DC モードを選択できます。

[Auto (自動)] このモードを選択すると、取り付けられているファンのタイプを検出して、制御モードを自動的に切り替えます。

[DC Mode (DC モード)] 3 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

[PWM Mode (PWM モード)] 4 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

CPU Fan 2 Setting (CPU ファン 2 設定)

CPU ファン 2 のファンモードを選択するか、[Customize (カスタマイズ)] を選択して 5 つの CPU 温度を設定し、各温度にそれぞれのファン速度を割り当てることができます。

構成オプション:

[Customize (カスタマイズ)] [Silent Mode (サイレント モード)] [Standard Mode (標準モード)] [Performance Mode (パフォーマンス モード)] [Full Speed (最高速度)]

CPU Fan 2 Temp Source (CPU ファン 2 温度ソース)

CPU ファンのファン温度ソースを選択できます。

[Monitor M/B (マザーボードを監視する)] この項目を選択して、マザーボードを温度の測定対象として設定します。

[Monitor CPU (CPU を監視する)] この項目を選択して、CPU を温度の測定対象として設定します。

CHA_FAN1 Switch (CPU_FAN1 スイッチ)

CHA_FAN1 / W_PUMP ヘッダー機能を切り替えることができます。

構成オプション: [CHA_FAN1] [W_PUMP]

Chassis Fan 1 Control Mode (シャーシ ファン 1 制御モード)

シャーシ ファン 1 の PWM モードまたは DC モードを選択できます。

[Auto (自動)] このモードを選択すると、取り付けられているファンのタイプを検出して、制御モードを自動的に切り替えます。

[DC Mode (DC モード)] 3 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

[PWM Mode (PWM モード)] 4 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

Chassis Fan 1 Setting (シャーシ ファン 1 設定)

シャーシ ファン 1 のファンモードを選択するか、[Customize (カスタマイズ)] を選択して 5 つの CPU 温度を設定し、各温度にそれぞれのファン速度を割り当てることができます。

構成オプション:

[Customize (カスタマイズ)] [Silent Mode (サイレント モード)] [Standard Mode (標準モード)] [Performance Mode (パフォーマンス モード)] [Full Speed (最高速度)]

Chassis Fan 1 Temp Source (シャーシ ファン 1 温度ソース)

シャーシ ファン 1 のファン温度ソースを選択できます。

[Monitor M/B (マザーボードを監視する)] この項目を選択して、マザーボードを温度の測定対象として設定します。

[Monitor CPU (CPU を監視する)] この項目を選択して、CPU を温度の測定対象として設定します。

CHA_FAN2 Switch (CPU_FAN2 スイッチ)

CHA_FAN2 / W_PUMP ヘッダー機能を切り替えることができます。

構成オプション: [CHA_FAN2] [W_PUMP]

Chassis Fan 2 Control Mode (シャーシ ファン 2 制御モード)

シャーシ ファン 2 の PWM モードまたは DC モードを選択できます。

[Auto (自動)] このモードを選択すると、取り付けられているファンのタイプを検出して、制御モードを自動的に切り替えます。

[DC Mode (DC モード)] 3 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

[PWM Mode (PWM モード)] 4 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

Chassis Fan 2 Setting (シャーシ ファン 2 設定)

シャーシ ファン 2 のファンモードを選択するか、[Customize (カスタマイズ)] を選択して 5 つの CPU 温度を設定し、各温度にそれぞれのファン速度を割り当てることができます。

構成オプション:

[Customize (カスタマイズ)] [Silent Mode (サイレント モード)] [Standard Mode (標準モード)] [Performance Mode (パフォーマンス モード)] [Full Speed (最高速度)]

Chassis Fan 2 Temp Source (シャーシ ファン 2 温度ソース)

シャーシ ファン 2 のファン温度ソースを選択できます。

[Monitor M/B (マザーボードを監視する)] この項目を選択して、マザーボードを温度の測定対象として設定します。

[Monitor CPU (CPU を監視する)] この項目を選択して、CPU を温度の測定対象として設定します。

CHA_FAN3 Switch (CPU_FAN3 スイッチ)

CHA_FAN3 / W_PUMP ヘッダー機能を切り替えることができます。

構成オプション: [CHA_FAN3] [W_PUMP]

Chassis Fan 3 Control Mode (シャーシ ファン 3 制御モード)

シャーシ ファン 3 の PWM モードまたは DC モードを選択できます。

[Auto (自動)] このモードを選択すると、取り付けられているファンのタイプを検出して、制御モードを自動的に切り替えます。

[DC Mode (DC モード)] 3 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

[PWM Mode (PWM モード)] 4 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

Chassis Fan 3 Setting (シャーシ ファン 3 設定)

シャーシ ファン 3 のファンモードを選択するか、[Customize (カスタマイズ)] を選択して 5 つの CPU 温度を設定し、各温度にそれぞれのファン速度を割り当てることができます。

構成オプション:

[Customize (カスタマイズ)] [Silent Mode (サイレント モード)] [Standard Mode (標準モード)] [Performance Mode (パフォーマンス モード)] [Full Speed (最高速度)]

Chassis Fan 3 Temp Source (シャーシ ファン 3 温度ソース)

シャーシ ファン 3 のファン温度ソースを選択できます。

[Monitor M/B (マザーボードを監視する)] この項目を選択して、マザーボードを温度の測定対象として設定します。

[Monitor CPU (CPU を監視する)] この項目を選択して、CPU を温度の測定対象として設定します。

AIO_PUMP Control Mode (AIO_PUMP コントロール モード)

AIO_PUMP の PWM モードまたは DC モードを選択できます。

[Auto (自動)] このモードを選択すると、取り付けられているファンのタイプを検出して、制御モードを自動的に切り替えます。

[DC Mode (DC モード)] 3 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

[PWM Mode (PWM モード)] 4 ピン ファンの場合はこのモードを選択します。

AIO_PUMP Setting (AIO_PUMP 設定)

ファンのファンモードを選択するか、[Customize (カスタマイズ)] を選択して 5 つの CPU 温度を設定し、各温度にそれぞれのファン速度を割り当てることができます。

構成オプション:

[Customize (カスタマイズ)] [Silent Mode (サイレント モード)] [Standard Mode (標準モード)] [Performance Mode (パフォーマンス モード)] [Full Speed (最高速度)]

Fan-Tastic

ファンのファンモードを選択するか、[Customize (カスタマイズ)] を選択して 5 つの CPU 温度を設定し、各温度にそれぞれのファン速度を割り当てることができます。

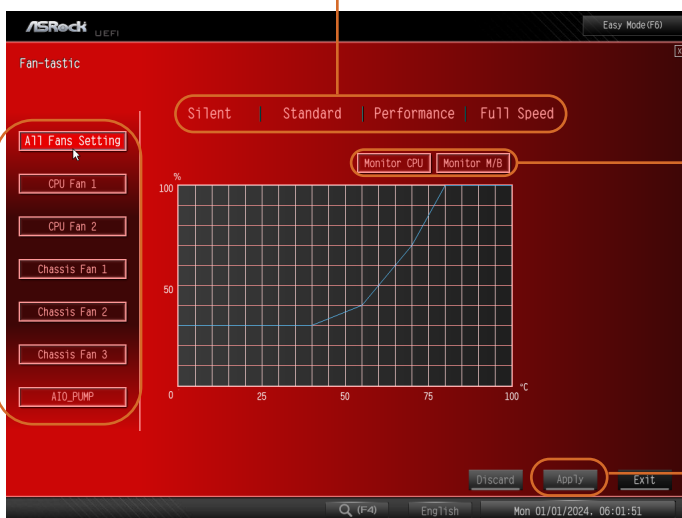
FanTuning

選択すると、BIOS はマザーボードに接続されるファンの最低速度を検出します。このプロセスが完了するまで数分かかります。

注: OS 内で適用される CAM 設定は、BIOS 内で行われた設定を上書きすることに注意してください。

ファンモードを選択するか、または、プロファイルのカスタマイズします。

調整するファンを選択します。

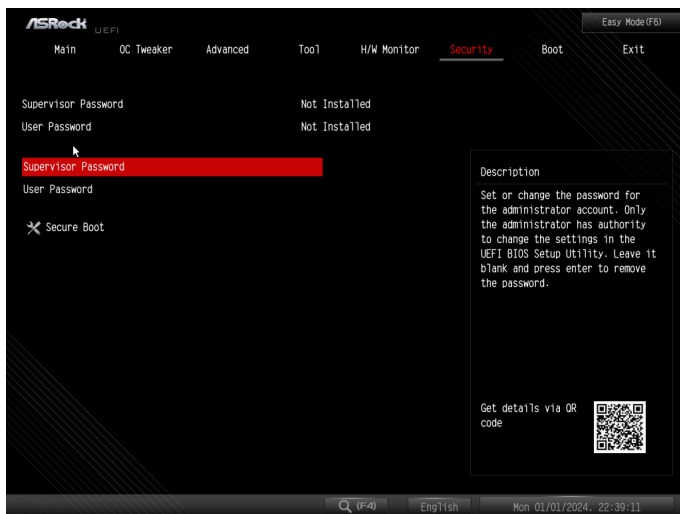


温度の測定対象を選択します。

設定を保存する

3.7 Security (セキュリティ) 画面

このセクションでは、システムのスーパーバイザーまたはユーザーのパスワードを設定および変更できます。ユーザー パスワードを消去することもできます。



Supervisor Password (スーパーバイザー パスワード)

管理者アカウントのパスワードを設定または変更します。管理者のみに、UEFI セットアップユーティリティの設定を変更する権限があります。パスワードを消去するには、空欄にして <Enter> を押します。

User Password (ユーザー パスワード)

ユーザー アカウントのパスワードを設定または変更します。ユーザーは、UEFI セットアップユーティリティの設定を変更することはできません。パスワードを消去するには、空欄にして <Enter> を押します。

Secure Boot (セキュア起動)

[Enter] を押して、Secure Boot (セキュア起動) 設定を構成します。この機能は、POST 中に不正なアクセスやマルウェアからシステムを保護します。

Secure Boot Mode (セキュア起動 モード)

[Standard (標準)] この項目を選択すると、システムは BIOS データベースからセキュア起動キーを自動的に読み込みます。

[Custom (カスタム)] この項目を選択すると、セキュア起動ポリシー変数は、完全な認証なしで物理的に存在するユーザーによって構成されます。

Install Default Secure Boot Keys (デフォルトのセキュア起動キーをインストールする)

初めてセキュア起動を使用する場合は、デフォルトのセキュア起動キーをインストールしてください。

Clear Secure Boot Keys (セキュア起動キーのクリア)

この項目は、デフォルトのセキュア起動キーをロードする場合にのみ表示されます。この項目を使用して、すべてのデフォルトのセキュア起動キーをクリアします。

Key Management (キー管理)

この項目を使用すると、エキスパート ユーザーは完全な認証なしでセキュア起動ポリシー変数を変更できます。Secure Boot Mode (セキュア起動モード) を [Custom (カスタム)] に設定した場合のみ表示されます。

Factory Key Provision (工場キーのプロビジョン)

プラットフォームのリセット後、システムがセットアップ モードのときに、工場出荷時のデフォルトのセキュア起動キーをインストールできます。

Install Default Secure Boot Keys (デフォルトのセキュア起動キーをインストールする)

初めてセキュア起動を使用する場合は、デフォルトのセキュア起動キーをインストールしてください。

Clear Secure Boot Keys (セキュア起動キーのクリア)

この項目は、デフォルトのセキュア起動キーをロードする場合にのみ表示されます。この項目を使用して、すべてのデフォルトのセキュア起動キーをクリアします。

Export Secure Boot variables (セキュア起動変数のエクスポート)

セキュア起動変数の NVRAM コンテンツをファイル システム デバイスルート フォルダー内のファイルにコピーできます。

Enroll Efi Image (Efi イメージの登録)

イメージをセキュア起動モードで実行できるようにします。バイナリの SHA256 ハッシュを承認済み署名データベース (db) に登録します。

Device Guard Ready (Device Guard 対応)

Remove 'UEFI CA' from DB (DB から「UEFI CA」を削除する)

Device Guard 対応システムは、承認済み署名データベース (db) に「Microsoft UEFI CA」証明書をリストしてはなりません。

Restore DB defaults (DB デフォルトを復元する)

DB 変数を工場出荷時のデフォルトに戻すことができます。

Platform Key(PK) (プラットフォームキー (PK))

工場出荷時のデフォルトを登録するか、ファイルから証明書をロードします。

1. Public Key Certificate (公開キー証明書):

- a) EFI_SIGNATURE_LIST
- b) EFI_CERT_X509 (DER)
- c) EFI_CERT_RSA2048 (bin)
- d) EFI_CERT_SHAXXX

2. Authenticated EFI Variable (認証済み EFI 変数)

3. EFI PE/COFF Image(SHA256) (EFI PE/COFF イメージ (SHA256))

Key Source (キー ソース): Factory (工場)、External (外部)、Mixed (混合)

Key Exchange Keys (キー交換キー)

工場出荷時のデフォルトを登録するか、ファイルから証明書をロードします。

1. Public Key Certificate (公開キー証明書):

- a) EFI_SIGNATURE_LIST
- b) EFI_CERT_X509 (DER)
- c) EFI_CERT_RSA2048 (bin)
- d) EFI_CERT_SHAXXX

2. Authenticated EFI Variable (認証済み EFI 変数)

3. EFI PE/COFF Image(SHA256) (EFI PE/COFF イメージ (SHA256))

Key Source (キー ソース): Factory (工場)、External (外部)、Mixed (混合)

Authorized Signatures (承認された署名)

工場出荷時のデフォルトを登録するか、ファイルから証明書をロードします。

1. Public Key Certificate (公開キー証明書):

- a) EFI_SIGNATURE_LIST
- b) EFI_CERT_X509 (DER)
- c) EFI_CERT_RSA2048 (bin)
- d) EFI_CERT_SHAXXX

2. Authenticated EFI Variable (認証済み EFI 変数)

3. EFI PE/COFF Image(SHA256) (EFI PE/COFF イメージ (SHA256))

Key Source (キー ソース): Factory (工場)、External (外部)、Mixed (混合)

Forbidden Signatures (禁じられた署名)

工場出荷時のデフォルトを登録するか、ファイルから証明書をロードします。

1. Public Key Certificate (公開キー証明書):

- a) EFI_SIGNATURE_LIST
- b) EFI_CERT_X509 (DER)
- c) EFI_CERT_RSA2048 (bin)
- d) EFI_CERT_SHAXXX

2. Authenticated UEFI Variable (認証済み UEFI 変数)

3. EFI PE/COFF Image(SHA256) (EFI PE/COFF イメージ (SHA256))

Key Source (キー ソース): Factory (工場)、External (外部)、Mixed (混合)

Authorized TimeStamps (承認されたタイムスタンプ)

工場出荷時のデフォルトを登録するか、ファイルから証明書をロードします。

1.Public Key Certificate (公開キー証明書):

- a) EFI_SIGNATURE_LIST
- b) EFI_CERT_X509 (DER)
- c) EFI_CERT_RSA2048 (bin)
- d) EFI_CERT_SHAXXX

2.Authenticated UEFI Variable (認証済み UEFI 変数)

3.EFI PE/COFF Image(SHA256) (EFI PE/COFF イメージ (SHA256))

Key Source (キー ソース): Factory (工場)、External (外部)、Mixed (混合)

OsRecovery Signatures (OsRecovery 署名)

工場出荷時のデフォルトを登録するか、ファイルから証明書をロードします。

1. Public Key Certificate (公開キー証明書):

- a) EFI_SIGNATURE_LIST
- b) EFI_CERT_X509 (DER)
- c) EFI_CERT_RSA2048 (bin)
- d) EFI_CERT_SHAXXX

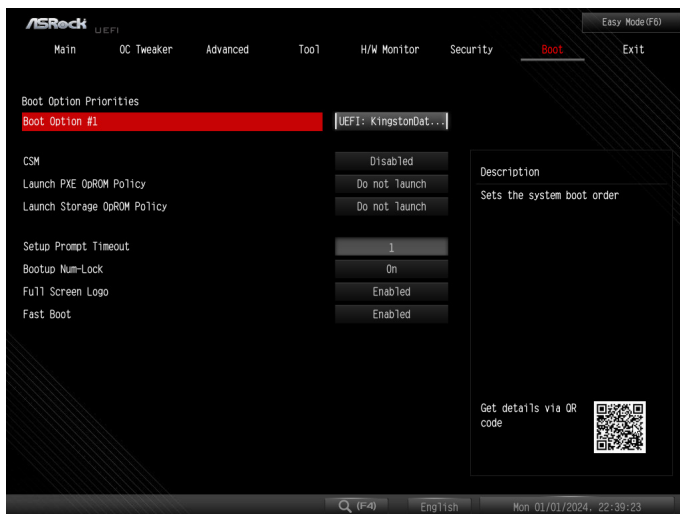
2. Authenticated UEFI Variable (認証済み UEFI 変数)

3. EFI PE/COFF Image(SHA256) (EFI PE/COFF イメージ (SHA256))

Key Source (キー ソース): Factory (工場)、External (外部)、Mixed (混合)

3.8 Boot (起動) 画面

このセクションは、起動および起動優先順位の設定ができる、システム上のデバイスを表示します。



Boot Option #1 (起動オプション #1)

この項目を使用して、システムの起動順序を設定します。

CSM

非 UEFI ドライバー アドオン デバイスの互換性を向上させるために、CSM (互換性サポート モジュール) が有効になっています。UEFI 対応 OS を使用していて、すべてのデバイスが UEFI をサポートしている場合は、CSM を無効にして起動速度を上げることもできます。

構成オプション: [Disabled (無効)] [Enabled (有効)]

Launch PXE OpROM Policy (PXE OpROM ポリシーの起動)

[UEFI only (UEFI のみ)] この項目を選択して、UEFI オプション ROM に対応するものだけを実行します。

[Do not launch (開始しない)] この項目を選択して、レガシーオプション ROM と UEFI オプション ROM の両方を実行しないようにします。

Launch Storage OpROM Policy (ストレージ OpROM ポリシーの起動)

[UEFI only (UEFI のみ)] この項目を選択して、UEFI オプション ROM に対応するものだけを実行します。

[Do not launch (開始しない)] この項目を選択して、レガシーオプション ROM と UEFI オプション ROM の両方を実行しないようにします。

Setup Prompt Timeout (設定プロンプトのタイムアウト)

セットアップ ホット キーを待機する秒数を構成できます。

Bootup Num-Lock (起動時の数値ロック)

システムの起動時に Num Lock をオンにするかオフにするかを選択できます。

Full Screen Logo (全画面ロゴ)

[Enabled (有効)] 起動ロゴを表示する場合に選択します。

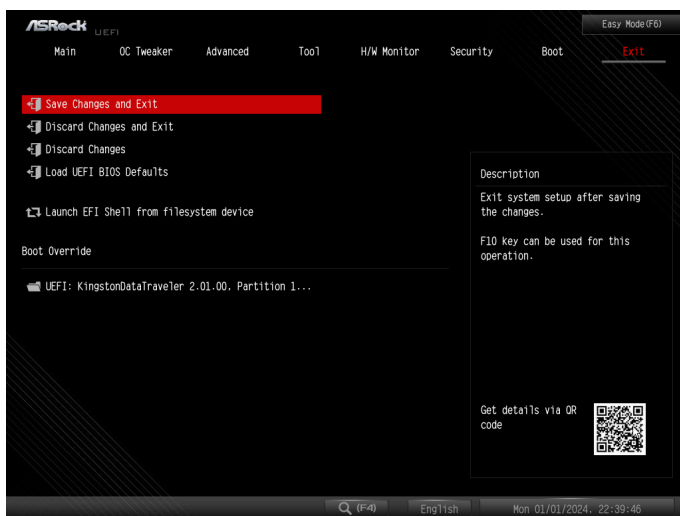
[Disabled (無効)] 通常の POST メッセージを表示するには、この項目を選択します。

Fast Boot (高速起動)

Fast Boot (高速ブート) は、コンピューターの起動時間を短縮します。ただし、USB ストレージ デバイスから起動することはできません。超高速モードは UEFI 対応 OS 以降のバージョンでサポートされており、外部グラフィックス カードを使用している場合は、UEFI GOP をサポートする VBIOS が必要です。超高速モードの起動は非常に高速であるため、この UEFI セットアップ ユーティリティに入る唯一の方法は、CMOS をクリアするか、Windows で UEFI ユーティリティへの再起動を実行することであることに注意してください。

構成オプション: [Disabled (無効)] [Ultra Fast (超高速)]

3.9 Exit (終了) 画面



Save Changes and Exit (変更を保存して終了)

このオプションを選択すると、「Save configuration changes and exit setup? (設定の変更を保存して設定を終了しますか?)」というメッセージが表示されます。<F10> キーを押すか [Yes (はい)] を選択して変更を保存し、UEFI セットアップ ユーティリティを終了します。

Discard Changes and Exit (変更を保存しないで終了)

このオプションを選択すると、「Discard changes and exit setup? (設定の変更を保存しないで終了しますか?)」というメッセージが表示されます。<ESC> キーを押すか [Yes (はい)] を選択して、変更を保存せずに UEFI セットアップ ユーティリティを終了します。

Discard Changes (変更を破棄)

このオプションを選択すると、「Discard changes? (変更を破棄しますか?)」というメッセージが表示されます。<F7> キーを押すか、[Yes (はい)] を選択してすべての変更を破棄します。

Load UEFI BIOS Defaults (UEFI BIOS デフォルトの読み込み)

すべてのオプションの UEFI デフォルト値を読み込むことができます。この操作には <F9> キーをショートカットとして使用できます。

Launch EFI Shell from filesystem device (ファイルシステム デバイスから EFI シェルを起動)

shellx64.efi をルート ディレクトリにコピーして、EFI シェルを起動できます。